

# 独立行政法人国立美術館に係る業務の実績に関する評価（平成14年度）

## 1. 評価の理念

国民本位の効果的で質の高い行政を実現するため、法人が現代及び未来の日本の社会にどのように貢献するかの視点に立ち、客観的な評価を行うことにより、行政の説明責任を果たし、あわせて業務の改善・活性化を図り、法人の自主性・自律性を担保する。

## 2. 評価の趣旨

事業年度において、中期計画の実施状況を調査・分析し、業務の実績の全体について総合的な評定を行うことにより、以降の業務運営の改善に資する。

## 3. 評価のプロセス

評価は、法人から事業の説明を受けヒアリングした後、各委員が書面評価した上で合議により決定した。また、資料として、実績報告書（自己点検評価を含む）、財務諸表、外部評価委員会の評価、監事・会計監査人からの意見及び展覧会の図録等を使用した。

## 全体評価

事業活動、業務運営について、項目別評価の結果等を踏まえつつ、法人の業務の実績について記述式により評価する。また、業務全体について横断的な観点から、評価の理念である法人が現代及び未来の日本の社会にどのように貢献するかに基づき国民的視点に立って評価する。

評価項目		評価の結果
事業	収集・保管	平成14年度、国立美術館は、各館の目的及び基本方針に基づき、調査研究や展覧会への出品交渉など日常的な活動を通じて所有者に働きかけ、美術作品については購入458点、寄贈154点、寄託81点、映画フィルムについては購入208作品、寄贈6,124作品を外部有識者の意見を聴取するなどして収集し、各館にふさわしいコレクションの充実を図った。また、その散逸、破壊、海外流出が問題とされる中で、優れた美術作品を後世へ継承するという極めて重要な役割も果たした。美術作品の収集は、その件数だけで評価されるものではないが、今後とも、美術作品を収集しやすくするため、文化庁と連携協力し税制問題を含めてその推進方策を検討するとともに、4館で情報交換を図りながら各館にふさわしい作品を収集する必要がある。 保管についても、確実に行われたと評価できる。また、保存に関する調査研究や、特に国立西洋美術館で自動風除扉を設置するなど、より良い保管環境とするための改善が継続して行われた。なお、24時間空調が行われていない施設については、保管に適切な温湿度の範囲を超えないよう、また、急激な温湿度変化が生じないようにする必要がある。 保存・修復の専門的な知識を有する職員がいない館は、外部の研究者の協力を得るなどして、その強化に努めることが望ましい。 また、修理については、緊急を要するものから計画的に実施し、保存カルテや修理データも確実に記録された。引き続き、保存・修復に関するデータベースの共通規格化を検討することが望ましい。 なお、美術作品の取扱いについては、その知識と技術が重要であるとともに慎重さが求められることから、引き続き、職場での体験や研修を通じて、その継承に努める必要がある。
	公衆への観覧	国立美術館が国民に対して提供するサービスの中心である展覧会は、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、国内外に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展・海外交流展など、様々な内容のものをバランス良く企画し、幅広い層が満足する展覧会を行った。また、目標の入館者数約160万人を大きく超える約195万人が観覧した。 入館者数の目標については、その目標数の算出に難しい面もあったと思われるが、平成14年度より小・中学生の全ての展覧会の観覧料金を初めて無料化したことや広報・宣伝などの自己努力の結果、最終的に目標を大きく上回る実績結果となった。 より多くの国民を国立美術館に引き付けるため、展示の充実以外にも館の魅力を高めることが重要である。そのためには、効果的な広報を行い、観光や地域の振興に果たす役割を持つような戦略などを不断に検討し、いままで観覧したことのない人の興味も喚起し、何度も足を運んでもらえるような改善を図る必要がある。 その他、美術作品の活用として、公私立の美術館等に対して、その貸与や特別観覧を行い、美術作品を広く国民に公開することに概ね貢献できた。貸与については、美術作品の保管状態、自館での展示計画及び貸与要望の主旨を十分考慮しつつ、合理的な判断基準を明確に定めるなどして、幅広く応えていくことが必要である。  【より良い事業とするための意見等】 見易く、分かり易い作品解説にするよう工夫するなど、展示の持つ教育普及的效果に、十分配慮することが望ましい。
活動	調査研究	収蔵品や展覧会に関する調査研究は確実に行われ、美術作品の収集や展示に反映するとともに、図録の刊行などに成果をあげた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。外部の研究者との交流については、今後も積極的に行い、人的ネットワークを広く形成することが望ましい。 また、研究員の日常的な調査研究は、今後の収集・保管、展覧会、教育普及など美術館活動の基礎となるため、今後とも、研究成果の蓄積に努めることが望ましい。  【より良い事業とするための意見等】 研究成果については、国立美術館が作成する図録や研究紀要等で公開されているが、研究紀要の発行等に際しては、編集方針を併記するなど学術的に高い水準を確保することが望ましい。また、学会で発表する等、広く公開していくことが望ましい。
	教育普及	国立美術館は、年齢や職業など幅広い層を対象として、資料の公開、広報活動、講演会の開催、ワークショップの実施、学校等との連携など様々な教育普及活動に取り組み、年度計画以上の実績を上げた。これらの活動は、展示や解説を学術的に高い水準を維持しつつ、より分かり易く提示するものとして有効であった。今後は、これらの教育普及活動に参加した人に、美術館をどのように利用すればよいかを示唆できるよう、内容をより一層工夫することが望ましい。 また、限られた人員と予算の中で充実した教育普及活動を行うためには、引き続き、国立美術館として果たすべき役割を検討し、その上で全般にわたる見直しを検討することが望ましい。特に、博物館実習生の受け入れについては、他の業務のバランスを勘案の上、目的の明確化と内容を見直す必要がある。  【より良い事業とするための意見等】 収蔵品及び図書などの諸資料のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。
その他の入館者サービス	入館者に楽しく過ごしてもらうためには、展示以外のサービスにも十分に配慮しなければならない。平成14年度は、入館者の意見も採り入れながら、小・中学生の全ての展覧会の観覧料金の無料化、開館日の増、レストランのメニューの充実やミュージアムショップの商品の充実など、誰もが利用しやすく、また、快適に過ごせる時間と空間を提供することに努めたと評価する。また、入館者と直に接する受付・案内の職員や看士員、及びレストラン、ミュージアムショップ等の職員の対応は重要であり、接客についての研修を充実することが望まれる。 今後とも、アンケート調査を引き続き実施することにより、積極的に入館者の声を聞き、入館者が充実した時間を過ごせるよう、展覧会の企画、広報などあらゆる事業の改善にその結果を活用することが望まれる。なお、モニター制度の導入についても検討することが望ましい。	

	<p>サッカーのワールドカップ開催期間中は、外国人観光客に対し常設展の観覧料金を無料にし、外国語のリーフレットを新たに作成して配布するなど、日本文化の理解促進に貢献した。政府の観光立国懇談会の報告書を踏まえ、引き続き、外国人にも親しまれるための改善に力を入れる必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】      今後は、館へのアクセス情報等、インターネットを活用したサービスについても積極的な検討が望まれる。</p>
業	<p>国立美術館のトップマネジメントは、理事長、理事及び監事で行われ、各館の特徴を生かしつつ、一つの法人として一体的な運営をした。</p> <p>平成14年度は、美術館にとって重要な年齢層である小・中学生への積極的な働きかけとして、全ての展示会の観覧料金を無料化したことを特に評価する。その他にも、サッカーのワールドカップ開催関連事業の推進、観覧日の増や夜間開館など、幅広い層の人々が美術館に親しんでもらうための事業を積極的に行い、多くの人々が国立美術館の展示会を観覧した。特に、東京国立近代美術館本館においては、魅力あるレストラン、ミュージアムショップの整備をはじめ、新しい美術館の運営に積極的に取り組んでいることを評価する。</p> <p>国立美術館の運営においては、トップマネジメントの果たす役割が重要であり、今後とも、美術作品、人材、情報など国立美術館が持っている資源を最大限に活用し、4館が一体となった効果的かつ効果的な運営を行っていくことを期待する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】      国立美術館は、地震・火事・洪水又は人災などあらゆる災害が起きた場合、人の安全を最優先としながらも、美術作品を安全に保管し後世へ継承する責任があるため、あらゆる危機にも的確な判断と行動がとれるよう危機管理のマニュアル作りが重要である。      今後は、展示会の企画や独自の展示手法などに伴って発生しうる権利の問題についても検討することが望まれる。</p>
務	
運	<p>平成14年度の総利益の内、展示会の企画や広報の充実などにおいて経営努力をしたことにより、入場料、寄附金、図録の販売等の収入を伸ばし、当初予算に比べ1億5千6百万円増の利益をあげた。</p> <p>国立美術館が目指す効率化は、無駄な経費を節約し、できる限り小さいコストで、効果的により質の高いサービスを国民に提供するものでなければならない。平成14年度は、業務全般について、一元化を図ったり、省エネルギーに努力し、法人全体として1.3%の効率化を図ることに成功した。なお、そのことにより事業活動の質の低下は見られなかった。</p> <p>平成14年度予算は、その作成時点で法人設立後1年を経過していなかったため、実績に基づく予算配分となっていなかった。そのため、事業ごとの予算と決算に大きな差異が生じたが、平成15年度は、各事業の実績等を勘案した上で、予算を作成し、コスト意識を持ちながら柔軟で弾力的な執行を行い、その結果を自己点検する必要がある。</p> <p>平成13年度の運営費交付金債務は、平成14年度に美術作品の購入及び「目撃者 安齋展」(国立国際美術館)として全て執行された。また、平成14年度は約6千万円の運営費交付金債務が生じており、平成15年度に美術作品を購入する予定である。なお、法人設立時の現物出資により生じた還付消費税は、経営努力により生じたものとは認められないため、積立金として適切に管理された。</p> <p>国立美術館が安定した運営を行うためには、国からの支援と自己収入の確保が不可欠である。その他、民間企業からの寄附や協賛などを得るなどの渉外活動も大切である。そのため、今後とも、その規模や目的に応じた活動により、国立の美術館としてふさわしい役割を果たし、社会の利益に奉仕していることについて、国民の理解が得られるよう努力を続けていかなければならない。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】      美術作品の貸与・特別観覧や施設使用の料金の設定は、国有財産の使用料に準拠しているが、今後、使用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料の設定をするなど、独立行政法人として弾力的な取り扱いについて検討することが望ましい。</p>
営	
人 事	<p>国立美術館は人的資源、物的資源、情報資源などを有しているが、その活用を人が決定するという点において、人的資源が最も重要である。このため、その充実を図るとともに、適正な配置による効果的かつ効果的な活用が大切であり、平成14年度においては、国立美術館の限られた人員の中で、十分に検討されていると評価する。</p> <p>事務職員については、主として、文化庁、文部科学省、国立大学等との定期的な人事交流により、安定した人員の供給と組織の活性化がされているが、美術館業務固有の専門分野での人材育成に困難な面がある。このため、美術館運営など固有の業務についての知識を習得するための研修を実施する必要がある。また、国立美術館で独自に事務職員を採用し、人材を養成することも必要と考える。</p> <p>また、研究職員については、美術作品に関する専門的知識とともに、独立行政法人における役割を十分理解し、運営や広報など美術館活動の重要性について認識を持つことが必要である。そのため、経験と知識の専門性を尊重しつつ、文化庁や国立大学等との人事交流、又は公私立の美術館や民間企業等からの採用についても引き続き積極的に行っていく必要がある。</p> <p>その他、職員が直接行わなければならない業務以外のものについては、外部委託、外部の研究者、大学生・大学院生、ボランティアの活用の可能性について検討することが望ましい。</p> <p>なお、国立美術館として一体的な運営を目指すため、本部機能の充実を図り、4館における職員の人事交流も積極的に検討する必要がある。</p> <p>平成13年度の業務の実績に関する評価結果に対する役職員の給与や人事への反映状況については、適切に行われた。国立美術館の役職員の給与は国家公務員に準拠した額となっているが、役職員に対しインセンティブを与えるため、功績をあげた者への評価については、更に積極的に検討することが望ましい。</p>
施 設	<p>施設は国立美術館の活動の基盤であるため、業務を確実に実施するための機能を有するとともに、安全で快適でなければならない。そのため、定期的に点検を行い、計画的に改修していく必要がある。</p> <p>平成14年度は、国立西洋美術館において自動風除扉を設置した。なお、現在建設中の国立国際美術館の新館や国立新美術館については、美術作品を適切に保管するとともに、入館者が快適に過ごせるよう検討していく必要がある。</p>
総 評	<p>国立美術館は、平成14年度においては、中期目標期間の2年目として、目標の入館者数約160万人を大きく超える約195万人が観覧し、多くの人々が満足する展示会を開催するとともに、収集・保管、展示、調査研究、教育普及などの「国民に対して提供するサービス」、及び「業務運営の効率化」について、年度計画以上の実績を上げた。また、東京国立近代美術館本館が平成13年度末にリニューアルオープンし、展示室のみならず魅力あるレストランやミュージアムショップを充実させ、新しい美術館の運営に積極的に取り組んだ。さらには、ナショナルセンターとして国際文化交流を推進するとともに、国内外の美術館活動の充実へ大きく貢献するなど、中期目標にある「国民に親しまれる美術館を目指して」着実な成果を上げていくと評価する。</p>

# 項目別評価

中期計画の各項目ごとに段階的評価を行う。

**段階的評価**  
 「A」 中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。  
 「B」 中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。  
 「C」 中期計画を十分には履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要。  
 「-」 評価しない。

**定量的評価**  
 評価を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。

## 【東京国立近代美術館本館・工芸館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。 具体的には、下記の措置を講ずる。 (1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化 (2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進 (3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進 (4)外部委託の推進 (5)事務のOA化の推進 (6)連絡システムの構築等による事務の効率化 (7)積極的な一般競争入札を導入 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。	効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1.業務の一元化：本部において、これまで行っている人事、共済、給与事務の一元化に加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。 2.省エネルギー等 [本館] ア.電気 使用量 2,669,209kw (前年度比 - %) 料金 42,106,895円 (前年度比 - %) イ.水道 使用量 14,292m <sup>3</sup> (前年度比 - %) 料金 8,472,473円 (前年度比 - %) ウ.ガス 使用量 391,404m <sup>3</sup> (前年度比 - %) 料金 37,293,960円 (前年度比 - %) エ.一般廃棄物 14,340Kg (前年度比 - %) 料金 585,396円 (前年度比 - %) オ.産業廃棄物 3,590Kg (前年度比 - %) 料金 321,967円 (前年度比 - %) [工芸館] ア.電気 使用量 360,860kw (前年度比102.5%) 料金 7,019,115円 (前年度比89.3%) イ.水道 使用量 774m <sup>3</sup> (前年度比91.3%) 料金 334,923円 (前年度比89.1%) ウ.一般廃棄物 3,230Kg (前年度比85.2%) 料金 67,830円 (前年度比85.2%) エ.産業廃棄物 600Kg (前年度比80.0%) 料金 20,787円 (前年度比80.0%) 3.施設の有効利用：講堂等の利用率9% (32日/365日) 4.外部委託：14年度も下記の外部委託を行い業務の効率化を図った。 (1)会場管理業務 (2)設備管理業務 (3)清掃業務 (4)保安警備業務 (5)機械警備業務 (6)収入金等集配業務 (7)レストラン運営業務 (8)アトライブリ運営業務 (9)ミュージアムショップ運営業務 5.OA化：館内LANは文書ファイルの共有、Eメールによる事務連絡に活用されており、事務の効率化が図られている。 6.一般競争入札：美術館では所蔵作品を多数保有しているため、保安上の観点から、会場管理業務、設備管理業務、清掃業務について指名競争を行っている。 7.評議員会：開催回数 2回(平成14年10月1日(火),平成15年3月17日(月)) 8.研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善 独立行政法人特有の会計処理、消費税計算の概要の研修会、放送大学通信教育の簿記入門科目などを受講し職員の資質の向上を図られた。	A	東京国立美術館本館・工芸館の業務全般について一元化や省エネルギーに努力し1.1%の効率化を図った。 外部委託については、特に問題は認められなかった。 【より良い事業とするための意見等】 今後も、美術館本来の業務に支障を来たさない程度に効率化を図ることが望ましい。 本館の増改築を機に、施設の有効利用を積極的に検討することが望ましい。
	効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	1.121% 効率化係数計算式 (A-B)÷A (2,625,667,813 - 2,596,237,633) ÷ 2,625,667,813 = 0.01121 A:(14年度予算額 - 14年度特殊要因額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (2,592,680,950 - 11,936,000 - 26,885,775 + 45,551,960) ÷ 0.99 = 2,625,667,813 B:14年度決算額 - 14年度特殊要因決算額 2,615,588,418 - 19,350,785 = 2,596,237,633	B	

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
1 収集・保管 (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げ	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、			1.購入 69件 2.寄贈 79件	A	東京国立近代美術館本館・工芸館の収集方針に基づき、展覧会の出品交渉

<p>る各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p><b>(東京国立近代美術館)</b>  近・現代の絵画・水彩・素描、版画、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。美術・工芸に関してはコレクションにより近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。</p> <p>また、映画フィルム等については、残存するフィルムを可能な限り収集するとともに積極的に復元を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>		<p>評定を決定する。</p>	<p>3. 寄託 279件</p> <p>4. 特記事項  美術作品の収集における欠落部分の補充については、自己点検評価に記したような成果をあげた。また、寄贈による収集成果として、藤島武二・藤田嗣治らの油彩画、石本正の日本画、北代省三・木村賢太郎の彫刻のほか、当館のコレクションでは手薄なP・アレシンスキーなど海外作家4人の版画作品を含む計56点を所蔵作品に加えることができた。</p> <p>また、美術作品の取り扱いに関する研究員の指導としては、当館主任研究官がこれに当たったほか、新規採用の研究員は、東京文化財研究所保存科学部による「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修」を履修した。</p> <p>なお、当館は今年度の新収集作品を含めて、すべての所蔵作品について、修理データ等をも記載したカルテを制作しているが、作品の状態や修理については作品の形式に準じた個別的な要因が多く、共通規格に基づくデータベース化の可能性については4館学芸課長で検討していきたい。</p>	<p>など地道な活動を通じて美術作品を収集し、着実にコレクションの充実を図った。</p> <p>特に、寄贈・寄託で高い成果を上げた。</p> <p><b>【より良い事業とするための意見等】</b>  今後は、日本の近代美術に多大な影響を与えた海外の作品や日本の工業デザインなども収集することが望ましい。</p>																						
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 温湿度</p> <p>(1) 本館(空調実施時間 24時間)</p> <table border="1"> <tr> <td>展示会場</td> <td>温度 25.0</td> <td>湿度 55%</td> <td>(夏期)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>温度 21.5</td> <td>湿度 53%</td> <td>(冬期)</td> </tr> <tr> <td>収蔵庫</td> <td>温度 20.0</td> <td>湿度 55%</td> <td>(日本画等)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>温度 20.0</td> <td>湿度 53%</td> <td>(油彩画等)</td> </tr> </table> <p>(2) 工芸館(空調実施時間 9:00~17:00)</p> <table border="1"> <tr> <td>展示会場</td> <td>温度 22.0</td> <td>湿度 50%</td> </tr> <tr> <td>収蔵庫</td> <td>温度 22.0</td> <td>湿度 50%</td> </tr> </table> <p>2. 照明 全ての蛍光灯は紫外線防止3,000K(博物館美術館用) 無段階調光可能、高演色タイプ</p> <p>3. 空気汚染 2か月に1回、建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づき空気環境測定を実施。展示室では炭酸ガス排出のための排気ファンを運転している。</p> <p>4. 防災 機械警備による監視、及び中央監視室(工芸館は事務室)での監視。</p> <p>5. 防犯 本館 有人警備(8:00~19:00、金曜日は21:00まで)  工芸館 有人警備(8:30~18:15)  *本館、工芸館共に建物が無人となる場合は機械警備を実施。</p> <p>6. 特記事項 本館については、平成14年度の新収集作品を含めて、すべての所蔵作品の保存カルテを作成している。工芸館については、作品の現状をチェックし、修理が必要な作品について所蔵作品データベース上に記載する作業を進め、必要な作品から修理を進めるようにしている。</p>	展示会場	温度 25.0	湿度 55%	(夏期)		温度 21.5	湿度 53%	(冬期)	収蔵庫	温度 20.0	湿度 55%	(日本画等)		温度 20.0	湿度 53%	(油彩画等)	展示会場	温度 22.0	湿度 50%	収蔵庫	温度 22.0	湿度 50%	<p><b>A</b></p> <p>温湿度や照明などに配慮した適切な保管がされている。</p> <p>また、保存カルテも着実に作成した。</p> <p><b>【より良い事業とするための意見等】</b>  美術作品は貴重な国民の財産であるため、外部の研究者の協力を得るなどして、より良い保存環境の整備に努めることが望ましい。</p>
展示会場	温度 25.0	湿度 55%	(夏期)																							
	温度 21.5	湿度 53%	(冬期)																							
収蔵庫	温度 20.0	湿度 55%	(日本画等)																							
	温度 20.0	湿度 53%	(油彩画等)																							
展示会場	温度 22.0	湿度 50%																								
収蔵庫	温度 22.0	湿度 50%																								
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。</p> <p>緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。</p> <p>伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 修理件数 45件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本画 3件</li> <li>・洋画 8件</li> <li>・水彩・素描 5件</li> <li>・版画 24件</li> <li>・彫刻 4件</li> <li>・漆工・木工・竹工 1件</li> </ul> <p>2. 特記事項  抜本的な修理を行なうか、それとも部分的な修理を施して、その後の経過を継続的に観察していくかなど、処置の方法については修理業者と綿密な話し合いを行った上で委託し、修理報告書の提出を義務づけている。</p>	<p><b>A</b></p> <p>美術作品の保存状態の調査を行い、展示に使用する作品を中心に修理を行った。</p> <p>また、修理データも確実に記録した。</p> <p><b>【より良い事業とするための意見等】</b>  保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、4館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>																						
<p><b>2 公衆への観覧</b></p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p><b>(東京国立近代美術館)</b></p>	<p>展示会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展(展示替 本館5回、工芸館3回)</p> <p>2. 特別展・共催展 10回</p> <p>(1) 本館 6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「カンディンスキー展」</li> <li>「写真の現在2」サイト 場所と光景</li> <li>「小倉亀遊 人、花、こころ」</li> <li>「現代美術への視点 連続と侵犯」</li> <li>「ヴォルフガング・ライプ展」</li> <li>「青木繁と近代日本のロマンティシズム」展(平成15年度評価予定)</li> </ul> <p>(2) 工芸館 4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「森 正洋」陶磁器デザインの革新</li> <li>「昭和の桃山復興展 陶芸近代化の転換点」</li> <li>「クッションから都市計画まで」</li> <li>「今日の人形芸術 想念の造形展」(平成15年度評価予定)</li> </ul> <p>3. 常設展・特別展・共催展の入館者数 462,138人(平成13年度 123,606人)</p> <p>4. 地方巡回展 1回 入館者数8,309人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「日本人の風景表現」</li> </ul>	<p><b>A</b></p> <p>東京国立近代美術館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、「カンディンスキー展」や「森正洋」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、地方にも優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展など様々な内容のものをバランス良く行った。また、目標の入館者数約29万人を超える約44万人が観覧し、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>特に、本館の増改築後は、展示面積が広がったことにより、より多くの作品を展示して見ごたえのあるものとなった。</p> <p><b>【より良い事業とするための意見等】</b>  本館と工芸館の回遊性を確保するこ</p>																						

本館 年3～5回程度  
 工芸館 年2～3回程度  
 フィルムセンター 年5～6番組程度

(京都国立近代美術館)

年6～7回程度

(国立西洋美術館)

年3回程度

(国立国際美術館)

年5～6回程度

(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。

(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。

(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。

なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。

また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。

(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

常設展[本館]	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 開会期間 288日間 2. 会場 本館 2階～4階 3. 出品作品数 延1,532件(うち重要文化財20件) 4. 入場料金 一般420円 学生130円 一般(団体)210円 学生(団体)70円 5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入 6,572,700円)(目標入場料収入 5,998,000円) 6. アンケート回収数 119件(母集団 41,731人) アンケート結果 良い 73.1%(87件) 普通 22.7%(27件) 悪い 4.2%(5件)	A
入館者数	29,000人以上 20,300人以上 20,300人以上 29,000人未満 未満	134,317人	A
共催展[本館] 「カンディンスキー展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 開会期間 平成14年3月26日～平成14年5月26日 2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー 3. 共催後援 NHK, NHKプロモーション プリティッシュ・カウンシル 4. 出品点数 74件(うち国宝0件、重要文化財0件) 5. 入場料金 一般1,300円 学生900円 6. 入場料収入 29,364,970円(目標入場料収入20,270,000円) 7. 展覧会の内容 ロシア出身で20世紀絵画史上、最も重要な画家の1人であるワシリー・カンディンスキーの個展。ミュンヘンとモスクワを舞台に活躍していた1900年から1920年までの期間の作品で構成した。これらの作品はいずれも、その重要度にもかかわらず、旧ソ連内の美術館に所蔵され、従来国外へ出る機会のきわめて稀な作品である。 8. 講演会等 3回(参加人数388人)	A
入館者数	98,000人以上 68,600人以上 68,600人以上 98,000人未満 未満	104,343人	A
特別展[本館] 「写真の現在2」 サイト 場所と光景	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 開会期間 平成14年6月18日～平成14年8月4日 2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー 3. 協力 ダイマクション、白石デザインオフィス、株式会社マグナム、日本油脂株式会社 4. 出品点数 238件(うち国宝0件、重要文化財0件) 5. 入場料金 一般630円 学生340円 6. 入場料収入 3,705,790円(目標入場料収入1,655,000円) 7. 展覧会の内容 日本の中堅、若手の写真家、伊藤義彦、勝又邦彦、兼子裕代、小林のりお、鈴木理策、野口里佳、港千尋、横澤典の8人の新作、近作によるグループ展。 8. 講演会等 1回(参加者数482人) 9. アンケート回収 494件(母集団 9,140人) アンケート結果 良い164.4%(318件) 普通29.7%(147件) 悪い15.9%(29件)	A
入館者数	8,000人以上 5,600人以上 5,600人以上 8,000人未満 未満	9,140人	A
共催展[本館] 「小倉遊亀 人、花、こころ」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 開会期間 平成14年8月2日～平成14年10月6日 2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー 3. 共催協力 滋賀県立近代美術館、朝日新聞社 凸版印刷 4. 出品点数 84件(うち国宝0件、重要文化財0件) 5. 入場料金 一般1200円、学生900円 6. 入場料収入 30,067,970円(目標入場料収入13,858,000円) 7. 展覧会の内容 近代的な造形感覚と豊かな生命力を感じさせる作風で、日本の近代美術史に確かな位置を占める小倉遊亀の回顧展。所属した再興院展への出品作を中心に初期から晩年までの作品を集め、4章に分けて構成した。 8. 講演会等 2回(参加者数270人) 9. アンケート回収数 574件(母集団 116,701人) アンケート結果 良い192.7%(532件)・普通6.4%(37件)・悪い10.9%(5件)	A

とが望ましい。

東京国立近代美術館の方針に基づいて体系的に収集した約9千点の収蔵品(寄託を含む)により、館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。特に、本館の増改築後は、展示面積が広がったことにより、より多くの作品を展示して見ごたえのあるものとなった。また、入館者に楽しんでもらえるよう展示替えやテーマ展示などの工夫をこらし、入館者数を着実に増やした。今後とも、多くの国民に常設展を観覧してもらえるよう、効果的な広報を検討することが望ましい。

【より良い事業とするための意見等】  
 展示替えやテーマ展示のスケジュールを積極的に広報することが望ましい。積極的にアンケートを行い、その結果を分析して今後の事業の企画や広報に活用することが望ましい。

日本であまり紹介されてこなかったロシアの美術館が所蔵するミュンヘンからロシア時代の作品に焦点をおき、カンディンスキーの代表作である「コンポジション」と「コンポジション」を中心としたキューレーションの明確さを高く評価する。  
 また、目標を上回る人々が観覧した。

【より良い事業とするための意見等】  
 会場入り口付近に設置する関連グッズ売り場も、入館者に好感を持たれるよう配慮することが望ましい。  
 作品との関係が指摘されている音楽とコラボレートした講演会の開催なども検討することが望ましい。

現代写真の現況を8人の写真家によって示そうとする意欲的な展覧会であった。  
 なお、タイトルを工夫した方がより効果的であった。

【より良い事業とするための意見等】  
 企画、展示方法など、より一層の工夫することが望ましい。

小倉遊亀の代表作品を網羅した、わかりやすく、親しみやすい展覧会だった。また、他館との連携協力は今後とも積極的に行うことが望ましい。  
 また、目標を大きく上回る人々が観覧し、アンケートでも9割以上から「良かった」との回答を得ている。

【より良い事業とするための意見等】  
 会場内での混雑を緩和するため、期限付きの招待券や整理券の発行などを検討することが望ましい。

入館者数	67,000人以上 46,900人以上 67,000人未満 46,900人未満	116,701人	A	
特別展[本館] 「現代美術への視点 連続と侵犯」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年10月29日～平成14年12月23日</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー</p> <p>3. 共催 なし 協力 日本航空、中部電磁器工業株式会社 協賛 株式会社資生堂</p> <p>4. 出品点数 46件(うち国宝 0件、重要文化財 0件)</p> <p>5. 入場料金 一般830円 学生450円 一般(団体)680円 学生(団体)330円 一般(前売)700 学生(前売)350円</p> <p>6. 入場料収入8,215,590円(目標入場料収入6,386,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 美術史上の転換期としての現在を前向きにとらえて制作する、青木淳、キャンディス・ブレイツ、遠藤利克、ロラン・フレクスナー、ロニー・ホーン、ロン・ミュエク、中山ダイスケ、ジュリアン・オビー、高嶺巖の10作家の、絵画、ドローイング、立体、ビデオ、インスタレーションなど、さまざまな表現手段による作品で構成した。</p> <p>8. 講演会等 8回 486人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)</p> <p>9. アンケート回収数 35件(母集団 16,680人) アンケート結果 良い171.4%(25件) 普通14.3%(5件) 悪い14.3%(5件)</p>	A	<p>展示作品の水準も極めて高く、充実した展覧会であった。また、展示方式の品質も高水準でディスプレイそのものが作品であるかのように感じられた。しかし、タイトルを工夫した方がより効果的であった。</p> <p>また、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 現代美術に対する収集や展覧会などの取組みについて、国立美術館内で協議し積極的に進めることが望ましい。</p>
入館者数	15,000人以上 10,500人以上 15,000人未満 10,500人未満	16,680人	A	
企画展[本館] 「ヴォルフガング・ライブ展」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成15年1月18日～平成15年3月9日</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー</p> <p>3. 共催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/財団法人ミモカ美術振興財団/東京ドイツ文化センター 構成 ドイツ対外文化交流研究所 助成 国際交流基金</p> <p>4. 出品点数 17件(うち国宝 0件、重要文化財 0件)</p> <p>5. 入場料金 一般700円、学生350円</p> <p>6. 入場料収入 9,239,160円(目標入場料収入2,482,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 20年以上の長きにわたって、現代のドイツを代表する彫刻家として国際的に活躍するW・ライブの、わが国の美術館では初めての本格的な回顧展である。</p> <p>同展は、ドイツ対外文化交流研究所(シュトゥットガルト)が国際巡回展として組織し、同研究所の所蔵となった7点の作品を母体とし、作家と協議の上で、日本展のために追加された作品を合わせて構成された。出品作品17点は、《ミルク・ストーン》や花粉を用いた作品など、70年代半ばの初期作から、近年の蜜?による大がかりなインスタレーションまで、ライブのこれまでの作家活動をほぼ通覧できるよう配慮して選ばれた。</p> <p>8. 講演会等 5回(参加者数376人)</p> <p>9. アンケート回収数 226件(母集団 18,867人) アンケート結果 良い178.8%(178件) 普通17.7%(40件) 悪い13.5%(8件)</p>	A	<p>現代美術における自然観や作品観、作家の制作行為の意味などが明示された感銘深い展覧会であった。また、図録も、作家の意図が良く伝わる優れたものだった。</p> <p>目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 現代美術の本質として、作品自身ではなく、作品を通して作家が訴えるものをいかに入館者に伝えるかが課題である。</p>
入館者数	12,000人以上 8,400人以上 12,000人未満 8,400人未満	18,867人	A	
常設展[工芸館]	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 開会期間 155日間</p> <p>2. 会場 工芸館 2階</p> <p>3. 出品点数 延 410件</p> <p>4. 入場料金 一般420円 学生130円</p> <p>5. 入場料収入 (常設展のみの入場料収入 4,533,080円)(目標入場料収入 3,163,000円)</p>	A	<p>目標入館者数には届かなかったが、常設展をテーマを設定して4つの展覧会として開催したことを評価する。しかし、工芸品は日常生活に密着したものであるため、日常性をいかに演出するかが課題であり、展示手法をより一層、工夫することが望ましい。なお、鑑賞カードは、入館者の理解を深めるものとして効果があった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 重要文化財である建物のメリットを生かした企画や効果的な展示等を検討することが望ましい。</p>
入館者数	22,000人以上 15,400人以上 22,000人未満 15,400人未満	21,435人	B	
特別展[工芸館] 「森 正洋」陶磁器デザインの革新	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年6月28日～平成14年8月4日</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館本館2階 ギャラリー4</p> <p>3. 主催 東京国立近代美術館</p> <p>4. 出品点数 85件</p> <p>5. 入場料金は、常設展の一部として常設展料金420円を徴収。</p> <p>6. 入場料収入は、常設展入場料収入に含まれる。</p> <p>7. 展覧会の内容 日常の陶磁器デザインにより国内外で高い評価を得てきた森正洋の制作を、グッド・デザインのシンボ</p>	A	<p>プロダクト・デザインへの関心が高まるなか、その分野での日本の実力を示す優れた企画であるとともに開催時期も良かった。</p> <p>国民のニーズに応えるとともに、積極的に広報したことにより、目標を大きく上回る人々が観覧し、アンケートでも8割以上から「良かった」との回</p>

				ルとなった醤油さしから和洋の食器セット、パーティトレイ、最新の少量多品種へのニーズを映す飯わんやポット・カップまで、多数展示した。展示に当たっては、作品を単に回顧的に取り上げるのではなく、時代に即した主題や個性的なデザイン思考を示した主題等によって構成を図り、機能的で簡潔なフォルム、優れて個性的かつ現代的なデザイン性等、森作品の特性を鑑賞者に分かりやすく提示することに努めた。 8. 講演会等 3回(参加者数250人) 9. アンケート回収数 663件(母集団12,213人) アンケート結果 良181.0%(537件) 普通16.4%(109件) 悪い12.6%(17件)			
	入館者数	4,000人以上	2,800人以上 4,000人未満	2,800人未満	12,213人	A	
特別展[工芸館] 「昭和の桃山復興展 陶芸近代化の転換点」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				1. 開会期間 平成14年9月28日~平成14年11月24日(50日間) 2. 会場 東京国立近代美術館 工芸館 3. 主催 東京国立近代美術館 4. 出品点数 113件(うち国宝0件、重要文化財0件) 5. 入場料金 一般630円 学生340円 6. 入場料収入 4,402,190円(目標入場料収入2,963,000円) 7. 展覧会の内容 昭和初期の「桃山」再評価をきっかけとして桃山陶芸の再現に取り組み、それを拠り所にして近代的作家へと脱皮していった陶芸家の活動を紹介した。主な出品作家は、陶芸家の北大路魯山人、荒川豊蔵、金重陶陽、川喜田半泥子など8人であった。 8. 講演会等 ギャラリー・トーク 7回 282人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ) 9. アンケート回収数 136件(母集団11,374人) アンケート結果 良184.6%(115件) 普通15.4%(21件) 悪い10%(0件) 10. 特記事項 ギャラリー・トークの日にあわせて仮設の茶席を設け、抹茶サービスを行い、好評を得た。	A	魯山人をはじめ著名な陶芸家の作品を集めた、興味深い展覧会であった。また、展示された作品が我々の生活にどのように結びつくのが見えるとより深みのあるものとなった。 広報の仕方によっては、より多くの人々が観覧したのではないかと思われる。 また、アンケートは8割以上から「良かった」との回答を得ている。
	入館者数	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	11,374人	A	
特別展[工芸館] 「クッションから都市 計画まで」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				1. 開会期間 平成15年1月18日~平成15年3月9日 2. 会場 東京国立近代美術館工芸館及び東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー2・3 3. 主催 東京国立近代美術館/京都国立近代美術館 共催 財団法人堂本印象記念近代美術振興財団 協力 工作連盟資料館、ルフトハンザ カーゴ AG 後援 東京ドイツ文化センター 協賛 国際交流基金、(財)サントリー文化財団、財団法人ポーラ美術振興財団、(財)UFJ信託文化財団 4. 出品点数 209件 5. 入場料金 一般630円 学生340円 6. 入場料収入 2,949,070円(目標入場料収入1,314,000円) 7. 展覧会の内容 20世紀初頭のドイツ近代デザインの動向をドイツ工作連盟の活動とその中心にあって活躍した建築家ヘルマン・ムテジウスの言説から再構築して、世紀末からバウハウス誕生に至る近代デザイン史を新たな視点で検証した。ドイツや日本で収蔵されるプロダクト・デザイン製品、建築資料・都市計画模型、ポスター、図書刊行物資料等250件を展示した。京都国立近代美術館が企画した平成14年度交換展。 8. 講演会等 4回(参加者数200人) 9. アンケート回収数 231件(母集団11,823人) アンケート結果 良163.2%(146件) 普通34.6%(80件) 悪い12.2%(5件)	A	デザイン史という専門的見地からすれば重要な企画で、目標入館者数を超える実績を上げた。しかし、一般観覧者からすると総花的印象を与えたのではないかと思われる。なお、図録の内容は充実していた。  【より良い事業とするための意見等】 難解なデザイン作品については分かり易い展示を心がけるなどより一層の工夫が望ましい。また、展覧会場を本館と工芸館で分ける際には、今後、よく検討することが望ましい。
	入館者数	9,000人以上	6,300人以上 9,000人未満	6,300人未満	11,823人	A	
地方巡回展 「日本人の風景表現」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				1. 開会期間 平成15年1月4日~平成15年2月16日(44日間) 2. 会場 岡崎市美術博物館 3. 主催 岡崎市、独立行政法人国立博物館 東京国立博物館、独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館、中日新聞社 後援 愛知県教育委員会 4. 出品点数 57件(うち重要文化財7件) 5. 入場料金 大人 800円 小人 400円 6. 展覧会の内容 わが国の絵画・版画・工芸等に現われる風物や風景表現を糸口にして、私たちの自然観や宗教観に光を当てようという主旨の展覧会である。平安から昭和にいたる美術の流れを念頭におきながら、全体を「彼岸の風景」「物語の風景」「胸中の山水」「都市の風景」「理想としての農村」「富士山」「変貌する東京」「異次元の風景」の8つのパートに分け、絵画を中心に、工芸を含む57点を展示した。 7. アンケート回収数 93件(母集団8,309人) アンケート結果 大変良い141%(38件) 良い146%(43件) まあまあ8%(7件) 良くない5%(5件)	A	地方においても、国立美術館の優れた美術作品を観覧する機会を提供した。また、開催館の要望を尊重したことも評価する。  【より良い事業とするための意見等】 平成12年度の実績を目標としているが、展覧会毎に目標を立てることが望ましい。
	入館者数	5,979人以上	4,185人以上 5,979人未満	4,185人未満	8,309人	A	
(2)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、			1. 本館 ・貸与 119件	A	公私立の美術館等に対して、美術作品の貸与や特別観覧を行い、広く国民

<p>これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。</p>		<p>評定を決定する。</p>	<p>・特別観覧 164件</p> <p>2. 工芸館 ・貸与 68件 ・特別観覧 27件</p>	<p>へ公開することに貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も、貸与等の要望が増えると思われるが、美術作品の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を考慮しながら、幅広く応えることが望ましい。</p> <p>また、貸与・特別観覧の料金は、国の施設等機関であった頃の使用料に準拠しているが、今後、利用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料や対応を検討することが望ましい。</p>
<p><b>3 調査研究</b> (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。</p> <p>収蔵品に関する調査研究 美術作品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等</p> <p>(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 収蔵品の調査研究</p> <p>【本館】 『東京国立近代美術館ギャラリーガイド 近代日本美術のあゆみ』(市川政憲他) 『コレクションのあゆみ 1952 - 2002』展カタログ(大谷省吾他) 「北脇昇の『図式』絵画について」(大谷省吾) 「古賀春江《海》のモダンガール、再考」(大谷省吾) 「護光《馬》をめぐって」(大谷省吾) 「境界を描くこと 南薫造の《少女》における庭」(保坂健二郎) 「浴室の幾何学 近代日本の絵画にみるグリッドについて」(三輪健仁) 「ディテールの誘惑 ベン・ニコルソン《静物 緑と茶》」(鈴木勝雄) 「李禹煥の制作における『倫理』」(保坂健二郎)</p> <p>【工芸館】 「色絵金銀彩染付飾皿「竹林月夜」について」(金子賢治) 「岩田藤七「ガラス飛文平茶碗」」(北村仁美) 「縮緬地友禅訪問着「菊」」(今井陽子) 「近代工芸の名作 ヘルマン・ムテジウス「音楽室椅子」」(諸山正則) 「近代工芸の名作「平田郷陽「衣裳人形・長閑」」(木田拓也)</p> <p>2. 展覧会のための調査研究</p> <p>【本館】 カンディンスキーのロシア時代に関する研究(「カンディンスキー展」) 日本の現代写真におけるサイト(場所/光景)の問題に関する研究(「写真の現在2 サイト-場所と光景」展) 小倉遊亀に関する研究(「小倉遊亀展」) 現代美術における美術史への連続と侵犯に関する研究(「現代美術への視点連続と侵犯」展) ヴォルフガング・ライプに関する研究(「ヴォルフガング・ライプ」展)</p> <p>【工芸館】 戦後プロダクトデザインの成立と展開に関する研究(「森正洋」展) 近代工芸における桃山復興の諸相と影響についての研究(「昭和の桃山復興」展) モダンデザインの黎明期に関する研究(「ドイツ工作連盟」展) 近現代の人形芸術に関する研究(「今日の人形芸術」展)</p> <p>3. 科学研究費補助金による調査研究 【本館】 「日本文化の多重構造 近代日本美術に見る多文化的要素の系譜 1900年-1980年」</p>	<p><b>A</b></p> <p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に行われ、美術作品の収集、展覧会及び図録の刊行などに成果を上げた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 研究成果を積極的に公開し、学会等にも発表することが望ましい。</p>
<p><b>4 教育普及</b> (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 資料の収集及び公開</p> <p>【本館】 収集件数 17,357件 公開場所 本館アートライブラリ(本館2階) 利用者数 1,027人 貸出件数 2,159件(館内閲覧のみ、館外貸出はしていない。)</p> <p>【工芸館】 収集件数 4,077件 公開場所 工芸館図書閲覧室(工芸館1階) 利用者数 89人 貸出件数 208件(館内閲覧のみ、館外貸出はしていない。)</p> <p>2. 広報活動の状況</p> <p>刊行物による広報活動 美術館ニュース「現代の眼」、カレンダー(展覧会予定表)、年報、ギャラリーガイド近代日本美術のあゆみ、研究紀要、概要、パンフレットを発行。</p> <p>ホームページによる広報活動 工芸館の展覧会情報ページにおいては、概要のほかにギャラリートークの様子や会場風景、トピックス等の画像を掲載するとともに用語解説や子ども向けのページを設け、広く工芸作品鑑賞の普及に努めている。</p> <p>マスメディアの利用による広報活動 工芸館では、次の2誌に所蔵品を取り上げた連載を行い、近現代工芸及び東京国立近代美術館の活動全般の周知に努めるとともに、そのときどきの展覧会の広報普及を図っている。</p> <p>ア.「近代工芸の名作」『月刊チャイム銀座』(発行:株式会社和光) イ.「細部の真実 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌淡交』(発行:淡交社)</p> <p>また、次の2誌に情報を提供し、各号で展覧会広報を行っている。</p> <p>ア.「展覧会情報」『ICLUB』(発行:伊勢丹) イ.「私だけが知っている人間国宝 泣きっ面 ふくれっ面 笑い声」『婦人画報』(発行:アシェット婦人画報社)</p> <p>3. デジタル化した件数 【本館】 1,658件 【工芸館】 282件</p>	<p><b>A</b></p> <p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。</p> <p>特に、所蔵図書を検索システムをホームページで公開したことを評価する</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 美術作品を広く紹介する方法として、インターネットを利用して情報を発信することは有効であるが、著作権契約に困難が伴うため、その対応について検討することが望ましい。また、著作権が切れたもの、公開の許諾が得られたものについては、公開することが望ましい。</p> <p>なお、収蔵品のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。</p> <p>アートライブラリーを多くの国民が利用できるよう、館内の案内表示や広報を積極的に行うことが望ましい。</p>

(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。	出版件数	現代の眼	6回以上	4回以上 6回未満	4回 未満	6回	A	
		展覧会案内	2回以上	1回	0回	1回	B	
	ホームページのアクセス件数		129,602件以上	90,721件以上 129,602件未満	90,721 件未満	204,514件	A	
(2)新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。 また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 (3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。 それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。 また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。	講座・講習会等の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、 評定を決定する。	1.児童生徒を対象とした事業 児童生徒を対象とした事業としては、申し込みに基づく随時の講演会、ギャラリー・トーク、職場見学の受入れ等を行っている。また、ホームページ内に「こどものページ」を設けている。 [本館]小学校：3件(121人) 中学校：6件(366人) 高校：1件(14人) 大学：5件(66人) 小中高校の教員の研究会：5件 [工芸館]中学校：1件(5人) 大学：3件(94人) 高校の教員の研究会：1件 2.講演会等の事業 [本館]講演会 14回(1,399人) ギャラリー・トーク 15回(603人) [工芸館]ギャラリー・トーク 22回(950人)	A	児童生徒を含む多くの人々を対象とした講演会などを計画どおり着実に実施した。  【より良い事業とするための意見等】 多くの児童生徒に利用してもらうため、ホームページ用の学習用コンテンツの開発なども検討することが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員等が解説できる方策を検討することが望ましい。			
児童生徒に対するギャラリートーク等	277人以上	194人以上 277人未満	194人 未満	501人	A			
講演会等	回数	13回以上	9回以上 13回未満	9回 未満	14回	A		
	人数	183人以上	128人以上 183人未満	128人 未満	1,399人	A		
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	82.3% 回答数51件 良い82.3%(42件) 普通15.7%(8件) 悪い2.0%(1件)	A		
ギャラリートーク	回数	23回以上	16回以上 23回未満	16回 未満	37回	A		
	人数	348人以上	244人以上 348人未満	244人 未満	1,553人	A		
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	83.16% 回答数101件 良い83.16%(84件) 普通13.87%(14件) 悪い2.97%(3件)	A		
(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。	研修等の取組み状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、 評定を決定する。	1.研修の受け入れ 1人(51日間) 2.大学等との連携 博物館実習生の受け入れ [本館]8人 [工芸館]4人 その他 ・講演会へ講師を派遣 1件 ・校外授業として作品熟覧 1件 ・校外授業として展覧会見学 1件 3.ボランティア [本館]20名(平成15年5月10日の研修終了後、正式に登録。) [工芸館]12名(昭和の桃山復興展時のみ)	A	公私立の美術館の学芸担当職員への研修や博物館実習生の受け入れなど計画どおり着実に実施した。 また、ボランティアを平成15年度から導入するため、その募集を行った。  【より良い事業とするための意見等】 ボランティア等として、大学生・大学院生の活用も検討することが望ましい。			
(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。	渉外活動の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、 評定を決定する。	1.「写真の現在2 サイト-場所と光景展」 協力：ダイマクション、白石デザインオフィス、株式会社マグナム、日本油脂株式会社 2.「現代美術への視点 連続と侵犯展」 協力：日本航空、中部電磁器工業株式会社、プリティッシュ・カウンスル 協賛：株式会社 資生堂 助成：国際交流基金 3.(株)エレメントから美術館活動に対して30万円の助成を得た。	B	展覧会において企業から協力や助成金を受け事業の充実を図った。  今後は、より積極的に行う必要がある。			
5. その他の入館者サービス								

<p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等</p> <p>[本館] 障害者トイレ 3箇所(1階 1箇所, 2階 1箇所, 地下1階 1箇所)</p> <p>障害者エレベータ 2基</p> <p>段差解消(スロープ) 2箇所(正面玄関)</p> <p>貸出用車椅子 5台(1階)</p> <p>[工芸館] 障害者トイレ 1箇所(1階)</p> <p>障害者エレベータ 1基(1階)(障害者対応ではない)</p> <p>スロープ 1箇所(正面玄関)</p> <p>リフト 1基(正面玄関)</p> <p>貸出用車椅子 3台(1階)</p> <p>2. 音声ガイド「カンディンスキー展」「小倉遊亀展」で実施</p> <p>3. 夜間開館 74日間</p> <p>4. 小・中学生の入場料の無料化</p> <p>5. 高校生の入場料の低廉化 130円から70円に減額</p> <p>6. ワールドカップ時の外国人観光客の無料化(5月30日～7月7日)</p> <p>7. 江戸開府400年記念事業「ぐるっとパス(常設展共通入場券)」に参加。</p> <p>8. 「東京国立近代美術館あんない」「展覧会案内(カレンダー)」「会場ガイド」「出品作品リスト(日本語版、英語版)」等の配布。</p> <p>9. 一般入館者等の要望への対応</p> <p>夜間開館を金曜日通年実施。</p> <p>小・中学生入場料金の無料化。</p> <p>前売券の販売。</p> <p>アトライブラリーの土曜日開室。</p> <p>ワールドカップ開催期間中、外国人来館者に対する受付案内。</p> <p>10. レストラン・ミュージアムショップの充実</p> <p>[本館] レストランの土曜日の夜間営業を実施。</p> <p>4階休憩コーナーでの飲料水の廉価販売。</p> <p>[工芸館] 飲食物の販売。</p> <p>グッズの充実。</p>	<p><b>A</b></p> <p>小・中学生の全ての展覧会料金の無料化、金曜日の夜間開館通年実施、前売券の販売、アトライブラリーの土曜開館など入館者の要望に応えた。また、レストランの土曜夜間営業の開始やミュージアムショップの充実などにも努めた。</p> <p>サッカーのワールドカップ開催期間中は、外国人観光客に対し常設展の観覧料金を無料にするとともに、外国語のリーフレットを新たに作成して配布するなど、日本文化の理解促進に貢献した。</p>
--	-----------------------	--	--	---

## 【フィルムセンター】

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4)外部委託の推進</p> <p>(5)事務のOA化の推進</p> <p>(6)連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 業務の一元化</p> <p>本部において、これまで行っている一元化に加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2. 省エネルギー等</p> <p>ア. 電気 使用量 924,224kwh (前年度比 95.35%) 料金 20,044,758円 (前年度比 85.38%)</p> <p>イ. 水道 使用量 3,274 m<sup>3</sup> (前年度比 88.65%) 料金 1,921,171円 (前年度比 85.70%)</p> <p>ウ. 一般廃棄物 4,110Kg (前年度比 59.74%) 料金 149,310円 (前年度比 75.80%)</p> <p>エ. 産業廃棄物 4,030Kg (前年度比 69.48%) 料金 638,910円 (前年度比 317.92%)</p> <p>[相模原分館]</p> <p>ア. 電気 使用量 962,600kwh (前年度比 90.60%) 料金 13,567,984円 (前年度比 69.88%)</p> <p>イ. 一般廃棄物 - Kg (前年度比 - %) 料金 - 円 (前年度比 - %)</p> <p>ウ. 産業廃棄物 - Kg (前年度比 - %) 料金 - 円 (前年度比 - %)</p> <p>3. 施設の有効利用</p> <p>小ホールの利用率 11.23% (41日/365日)</p> <p>相模原分館映画ホールの利用率 2.47% (9日/365日)</p> <p>4. 外部委託: 14年度も下記の外部委託を行い業務の効率化を図った。</p> <p>(1)清掃業務 (2)機械設備等維持及び運転管理業務</p> <p>(3)受付、出札、警備等の会場管理業務 (4)大ホールの映写業務</p> <p>(5)夜間及び休館日の機械警備業務 (6)レストラン運営業務</p> <p>(7)その他、設備関係のメンテナンス業務</p> <p>5. OA化</p> <p>館内LANは文書ファイルの共有、Eメールによる事務連絡に活用されており、事務の効率化が図られている。</p> <p>6. 一般競争入札</p> <p>映画フィルムの購入契約は、著作権者との契約による購入となるため、競争入札では入手できない。そのほかは東京国立近代美術館に含まれる。</p> <p>7. 評議員会、外部評価委員会</p> <p>(1)評議員会</p> <p>開催回数 1回(平成14年6月26日(水))</p> <p>議事内容 平成13年度事業報告及び平成14年度事業計画</p> <p>8. 特記事項</p> <p>研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善については、放送大学通信教育の簿記入門の受講し、職員資質の向上を図った。</p>	<p><b>A</b></p> <p>フィルムセンターの業務全般について一元化や省エネルギーに努力し1.1%の効率化を図った。</p> <p>外部委託については、特に問題は認められなかった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後も、美術館本来の業務に支障を来たさない程度に効率化を図ることが望ましい。</p>			

	効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	1.121% 効率化係数計算式 (A-B)÷A (2,625,667,813 - 2,596,237,633) ÷ 2,625,667,813 = 0.01121 A:(14年度予算額 - 14年度特殊要因額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (2,592,680,950 - 11,936,000 - 26,885,775 + 45,551,960) ÷ 0.99 = 2,625,667,813 B:14年度決算額 - 14年度特殊要因決算額 2,615,588,418 - 19,350,785 = 2,596,237,633	B
--	---------	--------	------------------	--------	---	---

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<b>1 収集・保管</b> (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。 <b>(東京国立近代美術館)</b> 近・現代の絵画・水彩・素描、版画、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。美術・工芸に関してはコレクションにより近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。また、映画フィルム等については、残存するフィルムを可能な限り収集するとともに積極的に復元を図る。 (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1. 購入 208件 2. 寄贈 6,124件 3. 寄託 - 件 4. 特記事項 寄付・寄贈の有効な収集方法の検討については、現在文化庁が設置した「映画振興に関する懇談会」で検討されている「法定納付制度」の導入に関する提言を踏まえ、文化庁と協議の上、今後も継続的に検討して行く。 平成14年度は、企画上映および収蔵作品の充実のため日本映画各社の劇映画を中心とした作品を購入するとともに、日本映画新社等の文化・記録映画、岡本忠成の人形アニメーションの購入を行った。また、平成8年及び平成10年に調査・確認されたロシア所在の戦前日本劇映画および文化・記録映画の購入も前年に引き続き行った。 映画フィルムの寄贈に関しては個人コレクターより『斬人斬馬剣』など貴重な作品の寄贈を受けるとともに、これまでと同様、文化庁優秀映画受賞作品の一部である4作品について寄贈を受けた。また、FIAF会員であるジョージ・イーストマン・ハウスとの交換寄贈を行うとともに、ワーナー・ブラザーズ社より外国劇映画152作品の大量の永久貸与を受けた。 社団法人映像文化製作者連盟を通じた呼びかけに応じて平成13年度より始まった、戦後製作された日本文化・記録映画などの原版フィルムの寄贈は、平成14年度において飛躍的に増大し、9社から2,223作品(4,785本)にのぼる大量の寄贈を受けた。日本文化・記録映画の散逸を防ぎ、映像文化・映像資料として将来の活用に備えることを目指して始まった今回の事業を、今後とも着実に進展させていきたい。	A	フィルムセンターの収集方針に基づき幅広く映画フィルムを収集し、着実にコレクションの充実を図った。特に、日本文化・記録映画の寄贈で高い成果を上げた。  <b>【より良い事業とするための意見等】</b> フィルムセンターでは戦後の日本劇映画の14%しか収集していないため、今後とも、積極的に収集することが望ましい。
(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。 (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1. 温湿度 (1) フィルムセンター 展示会場 空調実施時間 9:30~18:00 温度 22 ±2 (ただし、夏季は24 ±2) 湿度 50% ±5% *原則として設定された温・湿度で管理を行っているが、外気温との差により入館者のために最高5 までを許容温度としている。 *24時間空調が望ましいが、経費等を考慮して入館時間のみの運転時間としている。 収蔵庫 空調実施時間 10:00~20:00(ただし、土・日・月曜日は10:00~18:00) 温度 23 ±2 湿度 55% ±5% *設備管理要員がいる間みの運転としているが、地下3階に位置し、収蔵庫に出入りがない場合は、殆ど温・湿度に変化が生じない。 (2) 相模原分館 収蔵庫 空調実施時間 24時間 (地下1階保存庫) 温度 10 ±2 湿度 40% ±5% (地下2階保存庫) 温度 5 ±2 湿度 40% ±5% (特別保存庫) 温度 2 ±2 湿度 35% ±5% 2. 照明 フィルムセンター7階展示室内のポスター、スチル写真等は100ルクスを上限とするとともに入館者の有無を自動的に感知して照明の起動が行われるように設定し、作品への影響の低減化及び省エネルギー化を行っている。 3. 空気汚染 空調熱源に関しては、全て電気で賄っているため、施設設備からの空気汚染は発生していない。 4. 防災 (1) フィルムセンター収蔵庫の消火設備は二酸化炭素消火設備を設置 (2) 相模原分館保存庫の消火設備はハロゲンガス消火設備を設置 5. 防犯 (1) フィルムセンターは、各階毎の機械警備(昼夜)の導入により、防犯を実施。 (2) 相模原分館は、各棟毎に機械警備(昼夜)の導入により、防犯を実施。	A	温湿度などに配慮した適切な保管がされている。  <b>【より良い事業とするための意見等】</b> 収集件数が増える中で、貴重な国民の財産である映画フィルムを適切に保管するため、職員の増員を含め保管・修復の充実を図ることが望ましい。
(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1. 映画フィルム洗浄 22作品(所要経費:1,342,791円) 映画フィルムデジタル復元 1作品(所要経費:5,481,600円) 2. 修理の記録 洗浄を実施した映画フィルムに関しては、所蔵作品データベース上へ記録を行っている。	A	緊急を要するものから計画的に修復・復元を行った。

<p>する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 (3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>					
<p><b>2 公衆への観覧</b> (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある 質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。 (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。 <b>(東京国立近代美術館)</b> 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度 <b>(京都国立近代美術館)</b> 年6～7回程度 <b>(国立西洋美術館)</b> 年3回程度 <b>(国立国際美術館)</b> 年5～6回程度</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 企画上映等 8番組(中期計画記載回数:年5～6番組) 「所蔵外国映画選集:追憶のスター女優たち」 「日本映画の発見 :1970年代(1)」 「日本映画の発見 :1970年代(2)」 「こども映画館:2002年の夏休み(1)」 「こども映画館:2003年の春休み(2)」 「韓国映画 栄光の1960年代」 「シネマの冒険:闇と音楽 2003 D・W・グリフィス選集」 「逝ける映画人を偲んで1998 2002(1)」 2. 展覧会 2回(内1回は平成13年度から継続、内1回は平成15年度まで継続) 「映画でみる日本映画史:みそのコレクションより」展(平成13年度 評価済) 「展覧会 映画遺産」 3. 入館者数 企画上映等 78,568人(平成13年度 99,886人) 展覧会 5,811人(平成13年度 5,627人) 4. 優秀映画鑑賞推進事業 163会場 5. 映画文化に関する国際交流事業(国際映画祭出品協力事業) 11作品 6. 特記事項 企画上映について、文化・記録映画あるいは、外国映画のうち欧米の映画以外のアジア映画を中心とした作品による特集についても検討し、定期的実施する。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画上映、地方でも優れた映画を鑑賞する機会を提供した優秀映画鑑賞推進事業、映画について楽しく理解してもらうための「映画遺産」など様々な内容のものをバランス良く企画し、幅広い層が満足する上映会等を行った。また、目標の入館者数約15万6千人を超える約16万2千人が観覧し、アンケートでも8割以上から「良かった」との回答を得ている。 フィルムセンターの上映会は、既に映画館で上映されなくなった日本映画、外国映画、無声映画、戦後映画など様々な作品を鑑賞する機会を提供するものとして貴重であり、今後とも積極的に行うことが望ましい。 また、「こども映画館」「1960年代の韓国映画」は、目標入館者数には届かなかったが意欲的な活動であった。</p>
<p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。 (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。 (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実に資する観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。</p>	<p>企画上映 「所蔵外国映画選集:追憶のスター女優たち」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成14年4月2日～平成14年5月26日(48日間/96回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 34作品(1作品2～3回上映):延96作品上映 4. 入場料金 一般500円,高校・大学生300円,小・中学生100円 5. 入場料収入 6,850,600円(目標入場料収入 4,406,000円) 6. 講演会等 なし 7. 企画上映の内容 映画という文化の特徴の一つと言ってもよい「スター女優」という存在にスポットを当てた企画で、フィルムセンターが所蔵する外国映画のプリントから、主に欧米の大スターや名女優が主演する秀作を34本選び、2か月間にわたって上映するものである。 8. アンケート回収数 105件(母集団 17,428人) アンケート調査 良い84.8%(89件)・普通12.3%(13件)・悪い2.9%(3件)</p>	<p><b>A</b></p>	<p>既に映画館では見ることのできない国内外の往年のスターを取り上げた、フィルムセンターの特色を生かした企画であった。 また、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも8割以上から「良かった」との回答を得ている。</p>
<p>なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。 また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。 (3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>企画上映 「日本映画の発見 :1970年代(1)(2)」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 (1)平成14年6月4日～平成14年8月2日(52日間/100回) (2)平成14年8月13日～平成14年10月27日(66日間/132回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 (1)34作品(1作品2～3回上映):延100作品上映 (2)6作品(1作品2回上映):延12作品上映 4. 入場料金 一般500円,高校・大学生300円,小・中学生100円 5. 入場料収入 (1)6,260,900円(目標入場料収入5,500,000円) (2)8,184,700円(目標入場料収入7,244,600円) 6. 講演会等 なし 7. 企画上映の内容 日本映画史を1910年代から現代まで、現存する作品で、総合的、網羅的に迎ろうとする長期企画「日本映画の発見」シリーズが、その最終章ともいえるべき第7期に入り、1970年代の作家、作品を最良の所蔵プリントで回顧しようとするものである。2期に分かれる大型企画で、70年代前半を扱う1期では、2か月間に34本、2期では1970年代後半に製作された日本映画44本を上映する。 8. アンケート回収数 (1)43件(母集団 15,186人) (2)22件(母集団 20,115人) アンケート調査 (1)良い67.4%(29件)・普通25.6%(11件)・悪い7.0%(3件) (2)良い63.6%(14件)・普通27.3%(6件)・悪い9.1%(2件)</p>	<p><b>A</b></p>	<p>目標入館者数に届かなかったが、国民が日本の映画史をたどることができる上映会として、1996年から実施しているものであり、今回は1970年代の映画を網羅的、系統的に上映した見応えのある上映会であった。</p>
	<p>入館者数</p>	<p>15,000人以上 10,500人以上 15,000人未満 10,500人未満</p>	<p>17,428人</p>	<p><b>A</b></p>	
	<p>入館者数(1)</p>	<p>18,500人以上 12,950人以上 18,500人未満 12,950人未満</p>	<p>15,186人</p>	<p><b>B</b></p>	
	<p>入館者数(2)</p>	<p>24,500人以上 17,150人以上 24,500人未満 17,150人未満</p>	<p>20,115人</p>	<p><b>B</b></p>	

<p>企画上映 「こども映画館： 2002年の夏休み 2003年の春休み」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 (1) 平成14年7月30日～平成14年8月4日(6日間/12回) (2) 平成15年3月25日～平成15年3月30日(6日間/12回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 (1) 6作品(1作品2回上映): 延12作品上映 (2) 21作品(12プログラム)(1作品1回上映): 延21作品上映 4. 入場料金 一般500円, 高校・大学生300円, 小・中学生100円 5. 入場料収入 (1) 103,500円(目標入場料収入235,000円) (2) 123,300円(目標入場料収入235,000円) 6. 講演会等 各上映開始前(24回)に研究官によるこども向けトークを実施 7. 企画上映の内容 将来の映画観客となる小中学生を主たる観客に想定して、こどもたちに映画の面白さ、とりわけ日本映画の素晴らしさを知ってもらい、同時に映像に対する理解力を高め、情操教育にも資するよう企画する上映会で、夏休みに引き続き6日間行った。実施の当たってはこどもと保護者・引率者に入場を限定して開催する。なお、「2003年の春休み」では、「2002年の夏休み」同様、上映回数は6日間・12回だが、1作品2回上映を1回上映とすることにより、上映作品数及び番組数を2倍にして児童・生徒の年齢層に合わせた映画の選択肢を広げた。また、「2003年の春休み」では、「2002年の夏休み」のアンケートを参考に保護者・引率者にとっての時間の自由度を考慮して、開始時間を午前11時および午後1時30分に変更する。 8. アンケート回収数 (1) 267件(母集団 447人) (2) 308件(母集団 512人) アンケート調査 (1) 良い85.4%(228件)・普通12.7%(34件)・悪い1.9%(5件) (2) 良い80.5%(248件)・普通15.3%(47件)・悪い4.2%(13件)</p>	<p>A</p>	<p>こども達が専用ホールで映画に親しむ機会を作るため、新たに始めた事業である。目標入館者数に届かなかったが、映画開始前に研究員が解説を行うなど、映画に対する理解を深めるための努力が行われた。また、アンケートでは8割以上から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 多くのこどもに鑑賞してもらえるよう効果的な広報を検討する必要がある。また、上映作品がアニメに偏らないよう配慮することが望ましい。 こども達が専用ホールで映画に親しむ機会を作るため、新たに始めた事業である。目標入館者数に届かなかったが、映画開始前に研究員が解説を行うなど、映画に対する理解を深めるための努力が行われた。また、アンケートでは8割以上から「良かった」との回答を得ている。</p>
<p>入館者数 (夏休み)</p>	<p>1,500人以上 1,050人以上 1,500人未満 1,050人未満</p>	<p>447人</p>	<p>C</p>	
<p>入館者数 (冬休み)</p>	<p>1,500人以上 1,050人以上 1,500人未満 1,050人未満</p>	<p>512人</p>	<p>C</p>	
<p>共催上映 「韓国映画 栄光の1960年代」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成14年11月6日～平成14年12月25日(43日間/85回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 28作品(1作品3～4回上映): 延85作品上映 4. 入場料金 一般1,000円, 高校・大学生800円, 小・中学生600円 5. 入場料収入 5,217,200円(目標入場料収入 2,809,000円) 6. 講演会等 1回 参加人数 86人 7. 共催上映の内容 日韓国民交流年記念事業の一つとして、韓国の優れた劇映画を可能な限り多数上映する。近年、日本で、また、国際的にも、高い評価と人気を誇る韓国映画であるが、ごく一部の例外を除けば、1960年代の作品は、ほとんど知られていない。一方、10年間に1,500本以上の映画が製作された60年代こそが、韓国における映画の第1期黄金時代であるとの評価もあり、この時代の未知の映画遺産や作家たちの調査を行い、優秀作に日本語字幕を付して連続上映する。 8. アンケート回収数 13件(母集団 5,880人) アンケート調査 良い100.0%(13件)・普通0.0%(0件)・悪い0.0%(0件)</p>	<p>A</p>	<p>目標入館者数に届かなかったが、韓国映画の第一期黄金時代の作品を日本で初めて紹介し、映画史の欠落部分を埋める良い機会となった。アンケートでは回答者全員から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 より多くの人に鑑賞してもらえるよう効果的な広報を検討することが望ましい。</p>
<p>入館者数</p>	<p>9,500人以上 6,650人以上 9,500人未満 6,650人未満</p>	<p>5,880人</p>	<p>C</p>	
<p>特別企画上映 「シネマの冒険：闇と音楽 2003 D・W・グリフィス選集」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年1月7日～平成15年1月19日(12日間/24回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 30作品(12プログラム)(1作品2回上映): 延60作品上映 4. 入場料金 一般1,000円, 高校・大学生800円, 小・中学生600円 5. 入場料収入 2,910,800円(目標入場料収入 623,200円) 6. 講演会等 なし 7. 特別企画上映の内容 無声映画にピアノ等の伴奏付で上映する「シネマの冒険 闇と音楽」は、毎年恒例の企画として定着した感があるが、今回は「アメリカン・フィルム・マスター」と呼ばれるパイオニア、D.W.グリフィスの初期作品など30篇を12の番組に構成する。ニューヨーク近代美術館等からすでに入手しているフィルムセンターのコレクションに日本語字幕を付したプリントを用い、またピアニストは広く国内からの新たな人材により実施する。 8. アンケート回収数 17件(母集団 3,441人) アンケート結果 ・良い88.2%(15件)・普通0.0%(0件)・悪い11.8%(2件)</p>	<p>A</p>	<p>無声映画にピアノの伴奏を付けて上映するという意欲的な企画で、映画史の再発見にもなった。 また、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも約9割から「良かった」との回答を得ている。</p>
<p>入館者数</p>	<p>1,500人以上 1,050人以上 1,500人未満 1,050人未満</p>	<p>3,441人</p>	<p>A</p>	
<p>企画上映 「逝ける映画人を偲んで1998 2002(1)」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年1月28日～平成15年3月28日(52日間/100回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 50作品(1作品2回上映): 延100作品上映 4. 入場料金 一般500円, 高校・大学生300円, 小・中学生100円 5. 入場料収入 6,071,400円(目標入場料収入 4,583,200円) 6. 講演会等 なし 7. 企画上映の内容</p>	<p>A</p>	<p>日本映画界に輝かしい足跡を残した監督・俳優・技術スタッフなどの映画関係者の作品を集めたもので、そのラインナップだけでも壮観であった。 また、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。</p>

			日本映画界にそれぞれの足跡を残し逝去した映画関係者の業績を代表作品で偲び、回顧する恒例企画である。今回は1998年1月1日から2001年12月31日までの期間に亡くなった監督、俳優、技術スタッフなどが対象となる。4年半ぶりの開催となったため、市川右太衛門、高田浩吉、新珠三千代、吉村公三郎、宮川一夫の各氏をはじめ、90名以上の映画人を94作品・86番組で追悼する大型企画となる。この内、後半の第2期は、平成15年度に実施する。 8. アンケート回収数 18件(母集団 15,559人) アンケート調査 良い77.8%(14件)・普通22.2%(4件)・悪い0.0%(0件)				
	入館者数	15,500人以上	10,850人以上 15,500人未満	10,850人未満	15,559人	A	
	「展覧会 映画遺産」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。		1. 開催期間 平成14年11月26日～平成15年3月30日(153日間) 2. 会場 フィルムセンター7階展示室 3. 出品点数 363件 4. 入場料金 一般200円、大学・高校生100円、小・中学生無料 5. 入場料収入 402,550円(目標入場料収入 - 円) 6. 展覧会の内容 映画部門専用となったフィルムセンター展示室の開幕企画となった本展は、フィルムセンターの前身であるフィルム・ライブラリー時代から50年の間に収集した膨大な映画資料の中から、映画人の遺品や初期の映画機材など、特に公開の機会が限られていた珍しいコレクション360点あまりを集めて展示する。 7. 講演会等 なし 8. アンケート回収数 14件 アンケート調査 ・良い71.4%(10件)・普通14.3%(2件)・悪い14.3%(2件)	A	これまでフィルムセンターが収集してきたポスターや映写機などの映画資料から選りすぐったものを展示したもので、入館者が楽しめるようビデオ・モニターや上映など様々な工夫が行われた。	
	優秀映画鑑賞推進事業	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。		1. 開催期間 平成14年7月6日から平成15年3月16日までの間 2. 会場 長崎県を除く全国46都道府県の163会場 3. 主催 文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター 協力 (社)日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会 その他 各開催会場において協力等の団体あり 4. 出品点数 80作品(20プログラム) 5. 入場料金 500円以内 6. 入場料収入 - 円 7. 展覧会の内容 この事業は、文化庁とフィルムセンターが日本映画製作者連盟、全国興行環境衛生同業組合連合会などの協力のもと、全国各地の公立文化施設などと共同して、優れた日本映画の良質な35mmプリントを提供する巡回上映事業のプログラムである。今年度の上映作品は4作品を1プログラムとし、20プログラムで実施する。 8. アンケート回収数 13,683件(4月15日までに集計の報告のあった135会場の総数による) (母集団 41,731人) アンケート調査 良い91%(12,420件)・普通6%(854件)・悪い13%(383件)	A	フィルムセンターが所蔵する優れた映画を、地方においても鑑賞する機会を提供した。また、プログラムの工夫や会場数の増により観覧者数を伸ばし、アンケートでも9割以上から「良かった」との回答を得ている。	
	会場	130会場以上	91会場以上 130会場未満	91会場未満	163会場	A	
	入館者数	66,637人以上	46,646人以上 66,637人未満	46,646人未満	77,165人	A	
	国際映画祭出品協力事業	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。		1. 出品作品名:「棒 BASTONI」, 監督名:中村和彦 映画祭名称:フィラデルフィアフェスティバル(アメリカ), 2. 出品作品名:「いたいふたり」, 監督名:斎藤久志 映画祭名称:全州国際映画祭(韓国), 3. 出品作品名:「blue」, 監督名:安藤尋 映画祭名称:24回モスクワ国際映画祭 4. 出品作品名:「DOG STAR」, 監督名:瀬々敬久 映画祭名称:アジア太平洋映画(韓国) 5. 出品作品名:「海は見ていた」, 監督名:熊井啓 映画祭名称:サンセバスチャン国際映画祭(スペイン) 6. 出品作品名:「BORDER LINE」, 監督名:李相日 映画祭名称:バンクーバー国際映画祭(カナダ) 7. 出品作品名:「グローウィン グローウィン」, 監督名:堀江慶 映画祭名称:第51回マンハイム&ハイデルベルグ国際映画祭(ドイツ) 8. 出品作品名:「さざなみ」, 監督名:長尾直樹 映画祭名称:サンパウロ国際映画祭(ブラジル) 9. 出品作品名:「アレクセイと泉」, 監督名:本橋成一 映画祭名称:エコメデア国際映画祭(ドイツ) 10. 出品作品名:「白い船」, 監督名:錦織良成 映画祭名称:第2回カラチ国際映画祭(パキスタン) 11. 出品作品名:「小川プロ訪問記」, 監督名:大重潤一郎 映画祭名称:ベルリン国際映画祭(ドイツ)	A	優れた日本映画を海外の国際映画祭に出品するため、11作品について外国語字幕を付すなどの協力を行い、日本文化や日本映画の国際的理解を広めた。また、一般にほとんど知られていない作品にも配慮された。今後、さらに積極的に行うことが望ましい。	
(2)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。		1. 貸与・特別観覧の件数 映画フィルム 貸与 21件(75本)	A	映画祭主催者や研究者等に映画フィルムの貸与及び特別映写等を行い、広く国民へ公開することに貢献した。	

的に推進する。			特別映写 59件(186本) 複製利用 21件(42本) 映画資料貸与 18件(48本) 特別観覧 20件(44点) 2. 特記事項 映画フィルムの貸与については、著作権者の権利保護を踏まえながら、できうる限りの便宜を図ることに努めた。		
<b>3 調査研究</b> (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 収蔵品に関する調査研究 美術作品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。 (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 調査研究 (1) 収蔵品の調査研究 ・「みそのコレクション」についての調査研究 (2) 展覧会のための調査研究 ・「所蔵外国映画選集」についての調査研究 ・1960年代の韓国映画についての調査研究 ・「フィルムで見る20世紀の日本」についての調査研究 (3) 保存・修理に関する調査研究 ・ドイツにおける映画保存についての調査研究 ・インドネシアにおける映画保存についての調査研究 (4) 映画関係資料に関する調査研究 撮影監督協会や映画テレビ技術協会の協力を受け、継続して映画機材の調査を行った。 (5) 研究活動の活用等 当センターの調査研究の成果は、隔月で発行している「NFCニューズレター」に掲載した。NFCニューズレターは、大学等の研究機関、図書館等の団体と映画研究者や評論家等の約700件に配布し、研究者等の参考に資している。 (6) 特別映写等による外部への研究協力 大学等の映画に関する研究・教育等及び映画製作等の製作のための調査への協力の一つとして特別映写の機会を提供している。この制度を活用して、平成14年度は、撮影監督協会、シナリオ作家協会、NPO法人日本映画映像文化振興センターの研修等に協力した。 2. 客員研究員等の招聘実績(年度計画記載人数: 3人) 所蔵映画フィルムの総合的なデータ分析とカタログ及び目録作成 客員研究員氏名: 榎木 章(目白大学他 非常勤講師) 研究内容: 戦前期の所蔵日本ニュース映画の目録作成のために、各プリント内容の調査研究、データの集積及び必要に応じて不足データの補充と、データベースとして全体の統一を図るための調査研究。 所蔵映画関連資料に関するデータ構築と総合的な研究調査及び書誌作成 客員研究員氏名: 安澤秀太(フリー編集者、翻訳者) 研究内容: 平成10年度にNHK放送文化研究所より寄贈された「反町茂雄コレクション」(映画監督・衣笠貞之助の生涯資料ならびに映画会社・大映の内部資料)の整理・特定・分類調査、ならびに登録・データベースの構築(継続)。 所蔵映画フィルムの科学的側面からの保存・復元研究 客員研究員氏名: 榎木 章 研究内容: 内外の各種専門機関・現像所等の研究成果に基づき、所蔵映画フィルムに適應した保存・復元についての調査研究(継続)。 映画保存に関する国内外文献の比較調査研究 客員研究員氏名: 堀ひかり(学習院大学非常勤講師) 研究内容: 平成12年度開催の国際映画シンポジウム「フィルム・アーカイヴの仕事」を再定義するシンポジウムに関する内容についての比較調査。 外国映画に関する事業・企画の共同研究 客員研究員氏名: 溝口彰子(フリー翻訳者) 研究内容: 平成15年度以降に実施を検討している上映事業にかかわる調査、及びFIAF加盟の同種機関との映画史的、アーカイヴ的な事例に関する調査等。 3. 特記事項 「韓国映画 栄光の1960年代」の実施にあたっては、韓国映像資料院と共同で実施できたことや講演会における講師については、「文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」により招へいすることができた。 また、研究成果は、継続して調査研究を行っているもの以外は、フィルムセンターが発行している「NFCニューズレター」へ発表することができた。	A	収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に行われ、映画フィルムの収集、展覧会及びニューズレターなどに成果を上げた。 その他にも、外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。 【より良い事業とするための意見等】 研究成果を積極的に公開し、学会等にも発表することが望ましい。
<b>4 教育普及</b> (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。 (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。 (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。 (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、	美術館に関する情報の収集及び・公開の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 資料の収集及び公開 (1) 収集件数 1,125件(目標 - 件) (2) 公開場所 フィルムセンター図書室(4階) (3) 公開日数 182日間 (4) 公開件数等 利用者数 3,326人 公開資料数 21,382件 閉架利用件数 1,047件 複写利用数 1,364件(18,108枚) 2. 広報活動の状況 (1) 刊行物による広報活動 NFCニューズレター 偶数月発行(発行回数6回、発行部数6冊)年度計画記載発行回数6回)	A	資料の収集・公開、ニューズレター等の発行、映画に関する情報のデジタル化など計画どおり着実に実施した。 ホームページは、所蔵図書を検索システムを公開するなどの充実を図り、アクセス件数を伸ばした。

<p>調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>ニュースレター</p>	<p>6回以上</p>	<p>4回以上 6回未満</p>	<p>4回未満</p>	<p>カレンダー(上映会予定表) 企画番組毎1回発行(発行回数6回)(年度計画記載発行回数6回)</p> <p>(2) ホームページによる広報 フィルムセンターでの一般的な利用案内のほか、企画上映等の催し物案内やフィルムセンター刊行物・映画に関してフィルムセンターが取り組んでいる事業などを紹介し、映画鑑賞の普及や映画文化の振興に努めている。</p> <p>(3) マスメディアの利用による広報活動 各上映会毎にプレスリリースをマスコミ各社へ送付するとともに一般雑誌へ積極的に広報を依頼し、共催上映等の特別な事業については、その都度、記者内見会を実施し、広報普及に努めている。</p> <p>3. 所蔵作品のデジタル化 所蔵映画フィルムについてのデータベース構築のための文字情報のデジタル化を実施。 今年度にデジタル化したデータ件数 6,341件 平成14年度未収蔵作品数 34,561件 平成14年度未デジタル化作品数 34,561件</p>	<p>6回</p>	<p>A</p>	
<p>(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p> <p>相模原分館における上映会</p> <p>講演会等</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>10回以上</p> <p>1回</p> <p>351人以上</p>	<p>7回以上 10回未満</p> <p>0回</p> <p>246人以上 351人未満</p>	<p>7回未満</p> <p>0回</p> <p>246人未満</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業 (1) 相模原分館における小・中学生を対象とした上映会 実施回数 5回(平成13年度実績5回) 参加者数 401人(平成13年度実績 518人) (2) 企画上映「こども映画館」におけるトーク 各回の上映会の前には映画に関する理解を深めるため、研究員によるトークを実施した。 24回 参加者数 959人</p> <p>2. 講演会等の実施 講演会1回</p>	<p>5回</p> <p>1回</p> <p>86人</p>	<p>A</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>C</p>	<p>児童生徒を含む多くの人々を対象とした講演会などを実施した。</p> <p>また、新たに、こどものための「こども映画館」を開始した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 「こども映画館」や講演会などに多くの国民が参加できるよう、広報やプログラムを工夫することが望ましい。</p>
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>1. 人材養成 (1) 映画製作専門家養成講座 平成14年度で第6回を数える映画製作専門家養成講座は、平成9年度の第1回より日本映画の黄金時代(1950年代)を築き上げた数々の映画人を講師に迎え、映画をめぐる技と匠を次世代の映画人に継承すべく実施されてきた。第3回までは映画作りの部門別に講座を開催してきたが、第4回からは映画芸術に多大な功績を残した人物の業績をたどりつつ、受講生が映画製作を学べる場を提供している。 研修期間 4日間 参加者数 115人(内修了者数62人)(平成12年度実績118人)</p> <p>2. 大学等との連携 (1) 博物館実習生の受け入れ 受入期間 平成14年7月23日~平成14年7月27日(5日間) 参加者数 9人(平成12年度実績 - 人)</p>	<p>A</p>	<p>映画の専門的知識を有する者に対する映画製作専門家養成講座や博物館実習生の受入など計画どおり着実に実施した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ボランティア等として、大学生・大学院生の活用も検討することが望ましい。</p>	
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>「こども映画館」を実施するにあたり、企業の協力により記念品の提供を行った。</p>	<p>A</p>	<p>「こども映画館」において企業から協力を得て事業の充実を図った。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も、引き続き積極的に行うことが望ましい。</p>	
<p>5. その他の入館者サービス (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 障害者トイレ 1個所(1階1個所) 障害者エレベータ 2基</p>	<p>A</p>	<p>小・中学生の全ての展覧会料金の無料化、上映開始時間の変更など入館者サービスの向上に努めた。</p>	

<p>線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>			<p>段差解消（スロープ） 1 箇所（正面玄関） 貸出用車椅子 2 台（1 階） 自動ドア 1 箇所（正面玄関）</p> <p>2. 観覧環境の充実 7 階展示室での映像モニターの導入により、わかりやすい展示環境を整備した。</p> <p>3. 夜間開館等の実施状況 (1) 上映開始時間の変更 平日夜の回の上映開始時間を 3 0 分繰り下げ、午後 7 時からとした。 (2) 小中学生の入場料の低廉化 展示室の小中学生料金を無料とした。 (3) (2) 以外の入場者料金の取り組み方 ア. 学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金を現行の学生料金の低廉化を図る。 イ. 江戸開府 4 0 0 年記念事業参加に伴う減額。 (4) その他の入館者サービス ア. 館内での案内情報の充実 ・ 1 階受付カウンターでの館内の案内情報の提供 ・ 上映プログラムや展覧会等チラシの配布のため、来館者が利用できるフロア（1 階、2 階、4 階及び 7 階）にパンフレット台を設置 イ. 6 5 歳以上の入館者に対する入館料の学生料金の適用としている。 ウ. 上映会観覧当日に限り、展示室観覧料を団体料金の適用としている。</p> <p>4. 一般入館者等の要望の反映 開場前に並んでいる入場者の便宜を図るため 2 階エレベータ前ホールへ 1 8 席の椅子及び上映会場入口へ通じる階段部の踊り場への椅子の設置</p> <p>5. レストラン・ミュージアムショップの充実 レストランは火曜日から金曜日は午前 1 0 時 3 0 分から午後 8 時 3 0 分、土曜日及び日曜日は午前 1 0 時 3 0 分から午後 6 時まで営業 フィルムセンターにおいては、施設規模の面からミュージアムショップ等のスペース確保が難しいため、会場入口の受付においての出版物等の販売の実施</p>	
--	--	--	--	--

## 【京都国立近代美術館】

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中 期 計 画	指標又は評価項目	評定基準			指標又は評価項目に係る実績	評 定																									
		A	B	C		段階的 評定	定性的評定																								
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 1 % の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4) 外部委託の推進</p> <p>(5) 事務の O A 化の推進</p> <p>(6) 連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7) 積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年 1 回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 業務の一元化：平成 1 3 年度から実施したものに加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2. 省エネルギー等</p> <table border="1"> <tr> <td>ア. 電気 使用量</td> <td>1,204,309kwh (前年度比 94.85%)</td> <td>料金</td> <td>23,201,653円(前年度比 91.44%)</td> </tr> <tr> <td>イ. 水道 使用量</td> <td>7,759 m3 (前年度比 108.70%)</td> <td>料金</td> <td>3,462,753円(前年度比 114.00%)</td> </tr> <tr> <td>ウ. ガス 使用量</td> <td>117,514 m3 (前年度比 103.20%)</td> <td>料金</td> <td>5,942,188円(前年度比 88.86%)</td> </tr> <tr> <td>エ. 一般廃棄物</td> <td>16,390Kg (前年度比 9 2%)</td> <td>料金</td> <td>0円(前年度比 0%)</td> </tr> <tr> <td>オ. 産業廃棄物</td> <td>4,030Kg (前年度なし)</td> <td>料金</td> <td>313,950円(前年度なし)</td> </tr> </table> <p>3. 施設の有効利用 展覧会のイベントとして講演会やチャットトークを行い、他に団体鑑賞申込時に展覧会解説の申し出があれば、可能な限り、解説を行った。また、博物館実習、中学生のチャレンジ体験にも使用した。 講堂等の利用率 2 1 % ( 7 7 日 / 3 6 5 日 )</p> <p>4. 外部委託 下記の業務のほか新たに、電気・機械設備管理業務につき一般競争入札を導入し、外部委託を実施した。</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 設備管理業務</td> <td>3. 機械警備業務</td> <td>5. レストラン運営業務</td> </tr> <tr> <td>2. 清掃業務</td> <td>4. 収入金等集配金業務</td> <td>6. ミュージアムショップ運営業務</td> </tr> </table> <p>5. O A 化 館内 L A N が全館内に整備されており、各職員（含非常勤職員）が 1 台ずつパソコンを使用できる環境にある。館内 L A N により、サーバーに設けられている各係毎の共有文書ファイルが利用でき、また、電子メールにより事務連絡を行っている。</p> <p>6. 一般競争入札 一般競争入札件数 7 件（総契約件数 3 9 件） 本来、美術館は所蔵作品を多数保有していると言う点、また、観覧者サービスと言う点から、一般競争入札は相応しくないが、経費節減に鑑み、清掃業務、設備管理業務他について一般競争入札を行っている。</p> <p>7. 評議員会 開催回数 1 回（平成 1 5 年 3 月 7 日（金）1 4 時～）</p> <p>8. 特記事項</p> <p>1 効率化</p> <p>(1) 業務効率化 業務の効率を上げるため、館職員全員が参加して行われる定例会議（隔週）上において、各業務内容の見直し、観覧者サービスの向上等を検討している。 日本語による館案内リーフレットの他に、新たに 7 カ国語の館案内リーフレットを作成することにより、外国人を含む観覧者へのサービスを図ると共に、観覧者対応の頻度が減少した。</p> <p>(2) 外部委託の推進 これまでインターネット接続サービスは京都大学のネットワークを使用してきたが、これをインターネット接続の専門業者に依頼した。これにより、ハッカーやクラッカーによる、時には 1 時間に 2 万バケットという、攻撃よりサーバーやネットワークシステムを守ることができ、現在、安全に稼働し</p>	ア. 電気 使用量	1,204,309kwh (前年度比 94.85%)	料金	23,201,653円(前年度比 91.44%)	イ. 水道 使用量	7,759 m3 (前年度比 108.70%)	料金	3,462,753円(前年度比 114.00%)	ウ. ガス 使用量	117,514 m3 (前年度比 103.20%)	料金	5,942,188円(前年度比 88.86%)	エ. 一般廃棄物	16,390Kg (前年度比 9 2%)	料金	0円(前年度比 0%)	オ. 産業廃棄物	4,030Kg (前年度なし)	料金	313,950円(前年度なし)	1. 設備管理業務	3. 機械警備業務	5. レストラン運営業務	2. 清掃業務	4. 収入金等集配金業務	6. ミュージアムショップ運営業務	<p>A</p>	<p>京都国立近代美術館の業務全般について一元化や省エネルギーに努力し 1 . 9 % の効率化を図った。 外部委託については、特に問題は認められなかった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も、美術館本来の業務に支障を来たさない程度に効率化を図ることが望ましい。</p>
ア. 電気 使用量	1,204,309kwh (前年度比 94.85%)	料金	23,201,653円(前年度比 91.44%)																												
イ. 水道 使用量	7,759 m3 (前年度比 108.70%)	料金	3,462,753円(前年度比 114.00%)																												
ウ. ガス 使用量	117,514 m3 (前年度比 103.20%)	料金	5,942,188円(前年度比 88.86%)																												
エ. 一般廃棄物	16,390Kg (前年度比 9 2%)	料金	0円(前年度比 0%)																												
オ. 産業廃棄物	4,030Kg (前年度なし)	料金	313,950円(前年度なし)																												
1. 設備管理業務	3. 機械警備業務	5. レストラン運営業務																													
2. 清掃業務	4. 収入金等集配金業務	6. ミュージアムショップ運営業務																													

				ている。 展覧会案内等の発送は郵便局に依頼してきたが、これらの一部を民間の宅配業者に依頼することにより、郵便料金より安価で発送を行うことができた。 (3) 一般競争入札の導入 今後も業務の見直しを行い、美術館の事業に影響を及ぼさない可能な業務があれば、経費節減のため、一般競争入札の導入をしていきたい。 2 研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善 独立行政法人特有の会計処理、消費税計算の概要の研修会を行い、職員の資質の向上を図った。		
	効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	1. 865% 効率化係数計算式 (A - B) ÷ B (505,730,734 - 496,297,965) ÷ 505,730,734 = 0.01865 A : (14年度予算額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (500,820,760 - 246,333 + 99,000) ÷ 0.99 = 505,730,734 B : 14年度決算額 - 14年度特殊要因決算額 499,097,965 - 2,800,000 = 496,297,965	A

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<b>1 収集・保管</b> (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。 <b>(京都国立近代美術館)</b> 近代美術史における重要な作品 など近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。その際、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した収蔵品の充実にも配慮する。 (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1. 購入 95件 2. 寄贈 53件 3. 寄託 12件 4. 特記事項 「京都派」に限定することなく、幅広く質の高い美術作品の収集にも取り組むようにとの指摘を受け、加守田章二や藤本能道の陶芸作品、京都出身ながら東京で活躍した戦前の前衛日本画家玉村方久斗の作品、世界的に活動を展開する今井俊満や堂本尚郎、宮本浩二、山田正亮らの作品、グラフィック・デザイナーとしての横尾忠則の全貌を示す一連のポスター、世界的写真家ユージン・スミスの作品、在日韓国人作家文承根や孫雅由の作品、オランダの現代作家フィオナ・タンの映像作品などの収集にも積極的に取り組んだ。	A	京都国立近代美術館の収集方針に基づき京都派以外の作品まで幅広く収集し、着実にコレクションの充実を図った。 特に、寄贈・寄託で高い成果を上げた。
(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。 (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1. 温湿度 (1) 展覧会場 空調実施時間 9:00~17:00 温度 冬季 22±1 夏季 25±1 湿度 冬季 57±2% 夏季 53±2% * 展覧会により設定は異なる。 * 入館者が入ったときの温湿度管理について 1日4回温度と湿度を測定している。 * 24時間空調を行わない理由 建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。 (2) 収蔵庫 空調実施時間 9:00~17:00 温度 冬季 21±1 夏季 23±1 湿度 50% (ただし、日本画・染織・漆芸は57±2%) * 24時間空調を行わない理由 建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。 2. 照明 作品を劣化させる紫外線を含まない蛍光灯などの照明を使用している。 3. 空気汚染 年2回ばい煙測定を行うことにより大気汚染物質を排出しないよう監視している。 また、燻蒸は実施していない。 4. 防災 管理室・機械室において自動火災報知器により管理している。時間外は機械警備により管理。 5. 防犯 時間中は監視による巡回警備を行い、時間外は機械警備により管理している。 6. 特記事項 保存カルテ作成件数 148件 評価結果に対する対応 年間を通して適正な温湿度を保つ努力をしており、特に必要と認められる場合は、空調時間を延長し、時には加湿器を部分的に設置している。保存チェックについては収蔵庫からの作品の出し入れ(常設展示・貸出等)に際して、あるいは撮影に際して行い、必要に応じてカルテに記入するよう努めている。	A	温湿度や照明などに配慮した適切な保管がされている。 また、保存カルテも着実に作成した。 <b>【より良い事業とするための意見等】</b> 美術作品は貴重な国民の財産であるため、外部の研究者の協力を得るなどして、より良い保存環境の整備に努めることが望ましい。
(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等に	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を			1. 日本画 9件 洋画 4件 木工 1件		緊急を要するものから計画的に修理

<p>については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。</p> <p>緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。</p> <p>伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>		<p>踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>緊急に修復を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野毎に計画的に修復を行った。</p> <p>2. 特記事項 データベース 修理報告書は各作品について作成しているが、データベース化については現在検討中である。 修理業者への指導 修理の方法について美術史的な観点から指導するとともに、鑑賞的な観点から表具や額装について指導を行っている。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>を行った。また、修理データも確実に記録した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、4館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>			
<p><b>2 公衆への観覧</b></p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p><b>(東京国立近代美術館)</b> 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度</p> <p><b>(京都国立近代美術館)</b> 年6～7回程度</p> <p><b>(国立西洋美術館)</b> 年3回程度</p> <p><b>(国立国際美術館)</b> 年5～6回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実に資する観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。</p> <p>なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p> <p>(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展(展示替 11回)</p> <p>2. 特別展・共催展 7回 「銅版画の巨匠 長谷川潔展」(平成13年度評価済) 「日本画への招待 人・花・風景」 「カンディンスキー展」 「アメリカ現代陶芸の系譜1950 1990 自由の国のオブジェとうつつわ」 「スーラと新印象派 - 光と点描の画家たち」 「クッションから都市計画まで ヘルマンムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相1900-1927」 「ウィーン美術史美術館名品展～ルネッサンスからバロックへ～」</p> <p>3. 常設展、特別展、共催展の入館者数 285,448人(平成13年度 185,603人)</p> <p>4. 国立美術館・博物館巡回展 1回 「水辺の風景」 入館者数4,444人</p>	<p><b>B</b></p>	<p>京都国立近代美術館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、「日本画への招待」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、地方にも優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展など様々な内容のものをバランス良く行った。</p> <p>目標入館者数に届かなかったのは、その数を増やすだけの企画に安易に走らず、館の方針を貫いたためと思われるが、企画や広報を工夫し多くの国民に観覧してもらえるよう努力する必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 近代美術全般に配慮した企画と考えるが、ある分野を重点的に行うことも検討することが望ましい。</p>			
<p>常設展</p>	<p>入館者数</p>	<table border="1"> <tr> <td>20,000人以上</td> <td>14,000人以上 20,000人未満</td> <td>14,000人未満</td> </tr> </table>	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	<p>1. 開会期間 303日間(所蔵品展のみの開催期間41日間)</p> <p>2. 会場 4階常設展示場</p> <p>3. 出品点数 延1,785件</p> <p>4. 入館者数 189,648人(目標入場者数 160,000人) うち常設展のみの入場者数 13,393人(目標入場者数:20,000人) 常設展のみの入場者数が目標を下回ったのは、特別展、共催展と常設展を同時に観覧する傾向が高いため。</p> <p>5. 入場料金 一般420円(210円)、大・高生130円(70円)、中学生以下無料 ( )内は団体</p> <p>6. 入場料収入(常設展のみの入場料収入の合計 2,112,620円)(目標入場料収入 2,754,000円)</p> <p>7. アンケート回収数 3,675件(母集団 13,393人) アンケート結果 良い134.8%(1,279件) 普通25.8%(949件) 悪い12.3%(84件) 無記入37.1%(1,362件)</p> <p>8. 特記事項 「近代七宝の美 並河靖之の技」を特別小企画展として常設展の一部で開催し、常設展への入場者増をはかった。</p>	<p><b>B</b></p>	<p>京都国立近代美術館の方針に基づいて体系的に収集した約8千点の収蔵品(寄託を含む)により、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。また、展示替えや企画展に合わせたテーマ展を意欲的に行うなど、入館者に楽しんでもらえるよう努力した。目標入館者には届かなかったが、企画展の観覧者が常設展も観覧した人数を入れると昨年度よりも多くの人が観覧した。</p> <p>今後とも、多くの国民に常設展を観覧してもらえるよう、効果的な広報を検討する必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 積極的にアンケートを行い、その結果を分析して今後の事業の企画や広報に活用することが望ましい。</p>
20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満						
<p>共催展 「日本画への招待 人・花・風景」</p>	<p>入館者数</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 平成14年4月12日(金)～5月26日(日)(39日間)</p> <p>2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場</p> <p>3. 主催 京都国立近代美術館、京都新聞社 後援 京都府教育委員会、京都市教育委員会 協力 財団法人堂本印象記念近代美術振興財団</p> <p>4. 出品点数 148件</p> <p>5. 入場料金 一般600円(420円)/大・高生300円(210円)/中・小生以下無料 ( )内は団体</p> <p>6. 入場料収入 6,082,470円(目標入場料収入3,475,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 当館所蔵の日本画作品約650点から名品を一堂に公開</p> <p>8. 講演会等 2回 参加人数 129人</p> <p>9. アンケート回収数 413件(母集団 27,878人) アンケート結果 良い169.2%(286件) 普通22.3%(92件) 悪い12.9%(12件) 無記入5.6%(23件)</p>	<p><b>A</b></p>	<p>京都国立近代美術館の収蔵品を中心に構成され、3階企画展示室と4階常設展示室の2フロアを使用した意義のある充実した展覧会で目標を大きく上回る人々が観覧した。入館者に分かり易いよう展示を工夫するなど教育普及的な配慮がなされた。また、所蔵日本画の名品集を発行したことも評価する。</p>			
<p>共催展</p>	<p>入館者数</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を</p>	<p>1. 開会期間 平成14年6月8日(土)～7月21日(日)(38日間)</p>		<p>東京国立近代美術館からの巡回展で</p>			

「カンディンスキー展」	踏まえつつ、各委員の協議により、 評定を決定する。	<p>2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場</p> <p>3. 主催 京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン</p> <p>後援 外務省、文化庁、ロシア連邦大使館、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会</p> <p>協力 日本航空、エアロフロート・ロシア航空、フィンランド航空</p> <p>4. 出品点数 74件</p> <p>5. 入場料金 一般1,300円(950円)/大・高生900円(510円)/中・小生以下無料 ( )内は団体</p> <p>6. 入場料収入 17,453,560円(目標入場料収入13,900,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 カンディンスキーが抽象画へと突入する過程に焦点をしばって紹介</p> <p>8. 講演会等 4回 参加人数 364人</p> <p>9. アンケート回収数 1,623件(母集団 67,047人) アンケート結果 良い176.8%(1,247件)、普通19%(308件)、悪い11.3%(21件) 無記入2.9%(47件)</p> <p>10. 特記事項 「抽象絵画」というなお一般の鑑賞者にとっては敬遠されがちなジャンルの展覧会でも、多数の入場者を集め得る可能性が認められた事例として貴重であった。</p>	A	あり、入館者数では東京に及ばなかったが、京都という立地条件を考えれば、成功したといえる。また、講座や解説会を開いて広報普及にも努めた。 また、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。
入館者数	53,000人以上 37,100人以上 53,000人未満 37,100人未満	67,047人	A	
共催展 「アメリカ現代陶芸の系譜1950-1990 自由の国のオブジェとうつわ」	法人による自己点検評価の結果を 踏まえつつ、各委員の協議により、 評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年7月30日(火)~9月1日(日)(30日間)</p> <p>2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場</p> <p>3. 主催 京都国立近代美術館、日本経済新聞社</p> <p>後援 京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会</p> <p>4. 出品点数 131件</p> <p>5. 入場料金 一般1,100円(900円)/大・高生900円(500円)/中・小生以下無料 ( )内は団体</p> <p>6. 入場料収入 1,342,000円(目標入場料収入2,780,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 1950~90年にかけてのアメリカ陶芸の諸相を紹介</p> <p>8. 講演会等 2回 参加人数 143人</p> <p>9. アンケート回収数 140件(母集団 8,354人) アンケート結果 良い152.1%(73件)、普通27.1%(38件) 悪い15.7%(8件) 無記入15%(21件)</p> <p>10. 特記事項 日本は陶芸に長い歴史を持ち、アメリカやヨーロッパにも様々な影響を与えており、また影響もされている。それらの影響関係を実際の作品を通して考察することは、今後の陶芸と我が国の文化芸術の発展に大きな役割を果たすことになったと思う。</p>	A	目標入館者数には届かなかったが、地味なテーマでありながら、アメリカの現代陶芸を総合的に紹介した意欲的な展覧会であった。また、新たな芸術創造や文化の向上に役立つものとして評価する。  【より良い事業とするための意見等】 夏休み期間中に合わせた企画や広報を検討することが望ましい。
入館者数	10,000人以上 7,000人以上 10,000人未満 7,000人未満	8,354人	B	
共催展 「スーラと新印象派 - 光と点描の画家たち」	法人による自己点検評価の結果を 踏まえつつ、各委員の協議により、 評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年9月10日(火)~10月20日(日)(36日間)</p> <p>2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場</p> <p>3. 主催 京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン、読売新聞大阪本社</p> <p>後援 フランス大使館、ベルギー大使館、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会</p> <p>協賛 株式会社損害保険ジャパン</p> <p>企画協力 日本航空、ヤマト運輸、アプトインターナショナル</p> <p>4. 出品点数 105件</p> <p>5. 入場料金 一般1,300円(950円)/大・高生900円(510円)/中・小生以下無料 ( )内は団体</p> <p>6. 入場料収入 10,498,160円(目標入場料収入17,375,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 スーラを中心に新印象派の作品を紹介し、その美術史的意義をさぐる</p> <p>8. 講演会等 3回 参加人数 255人</p> <p>9. アンケート回収数 524件(母集団 51,488人) アンケート結果 良い166.2%(347件)、普通25.6%(134件)、悪い14.0%(21件) 無記入4.2%(22件)</p> <p>10. 特記事項 カタログは最新の欧米の研究成果を反映した充実した内容であり、今後のスーラ及び新印象主義研究に資するところがきわめて大きい。</p>	B	作品が希少で、借用困難であるスーラの展覧会を企画したという点で意欲的な展覧会であった。目標入館者には届かなかったが、最新の研究成果が生かされた意義のある展覧会であった。 作品の希少性を訴えた広報をするなど工夫すべき点があったと思われる。また、近隣の美術館の展覧会情報などを把握した上で企画や時期を決定する必要がある。
入館者数	66,000人以上 46,200人以上 66,000人未満 46,200人未満	51,488人	B	
特別展 「クッションから都市計画まで ヘルマンムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相1900-1927」	法人による自己点検評価の結果を 踏まえつつ、各委員の協議により、 評定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年11月2日(土)~12月23日(月)(45日間)</p> <p>2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場</p> <p>3. 主催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館</p> <p>共催 財団法人堂本印象記念近代美術振興財団</p> <p>協賛 国際交流基金、(財)サントリー文化財団、財団法人ポーラ美術振興財団、(財)UFJ信託文化財団</p> <p>協力 工作連盟資料館、関西ドイツ文化センター、ルフトハンザカーゴAG、京阪電鉄</p> <p>後援 ドイツ連邦共和国総領事館</p> <p>4. 出品点数 209件</p> <p>5. 入場料金 一般830円(560円)/大・高生450円(250円)/中・小生以下無料 ( )内は団体</p>	A	日本ではほとんど紹介されていなかった20世紀前半の重要なドイツの近代デザインの動向を紹介したものとして評価する。 また、目標を上回る人々が観覧した。  【より良い事業とするための意見等】 費用に関わらず行わなければならない展覧会もあるが、収支のバランスにも配慮することが望ましい。

				<p>6. 入場料収入 6,426,890 円 (目標入場料収入5,880,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 20世紀前半のドイツにおいてデザイン改革運動に決定的役割を果たしたドイツ工作連盟の活動とその理論的中心をになったムテジウスの思考を紹介</p> <p>8. 講演会等 3回 参加人数 146人</p> <p>9. アンケート回収数 163件 (母集団 12,842人) アンケート結果 良い162.0%(101件)、普通29.4% (48件)、悪い13.7% (6件) 無記入4.9% (8件)</p> <p>10. 特記事項 パウハウス関係の出品作品を除き、ムテジウスならびにドイツ工作連盟に関するほとんどの出品作品は、本展において、初めて日本で紹介された。また本テーマの展覧会は、日本のみならず海外においても初めての試みであったため、海外の研究者や関係者から高い評価を得られたことが、特記事項として挙げられる。また、カタログは本テーマを包括的に紹介する唯一の書籍であり、今後近代デザイン史を研究する上で、なくてはならない資料となっている。</p>			
	入館者数	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	12,842人	A	
	共催展 「ウィーン美術史美術館名品展～ルネッサンスからバロックへ～」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 開会期間 平成15年1月11日(土)～3月23日(日)(62日間)</p> <p>2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場</p> <p>3. 主催 京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン</p> <p>後援 外務省、オーストリア大使館、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会</p> <p>協力 全日本空輸、日本貨物航空、NHKプロモーション</p> <p>4. 出品点数 81件</p> <p>5. 入場料金 一般1,300円(1,000円)/大・高生900円(600円)/中・小生以下無料 ( )内団体</p> <p>6. 入場料収入 28,925,380円 (目標入場料収入31,275,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 ウィーン美術史美術館所蔵作品の中からルネッサンスからバロックにかけての名品を紹介</p> <p>8. 講演会等 5回 参加人数 429人</p> <p>9. アンケート回収数 758件 (母集団 102,376人) アンケート結果 良い172.6%(550件)、普通20.4% (155件)、悪い12.4% (18件) 無記入4.6% (35件)</p> <p>10. 特記事項 近代美術館としての性格を有する当館ではあるが、関西では古典美術を紹介する場も少なく、その意味でも古典と近代を結びつける視点を設定する上でも、貴重な場となった。</p>	B	<p>目標入館者数には届かなかったが、10万人以上の人々が観覧した。</p> <p>また、ウィーン美術史美術館の優れた美術作品を日本で観覧する機会を提供した。</p> <p>なお、京都という地域性を踏まえた企画や効果的な広報を検討する必要がある。</p>
	入館者数	119,000人以上	83,300人以上 119,000人未満	83,300人未満	102,376人	B	
	地方巡回展 「水辺の風景」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 開会期間 平成14年9月6日～平成14年10月6日(29日間)</p> <p>2. 会場 広島県立歴史博物館</p> <p>3. 主催 広島県立歴史博物館、京都国立近代美術館、京都国立博物館</p> <p>共催 中国新聞備後本社</p> <p>後援 福山市、福山市教育委員会、福山商工会議所、尾道商工会議所、三原商工会議所、府中商工会議所、笠岡商工会議所、井原商工会議所、福山青年会議所、広島経済同友会福山支部、広島県都市教育長会、広島県町村教育長会、広島県高等学校長協会、広島県公立中学校長会、広島県連合小学校長会、広島県高等学校PTA連合会、広島県PTA連合会、福山地域文化振興協議会、福山文化連盟、NHK福山支局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、エフエムふくやま</p> <p>4. 出品点数 41件(うち国宝 1件、重要文化財 4件)</p> <p>5. 入場料金 一般700円(560円)/高大生520円(410円)/小中生350円(280円) ( )内は団体</p> <p>6. 展覧会の内容 京都国立博物館・京都国立近代美術館の所蔵品の中から水にちなむ作品を一堂に展示</p> <p>7. 講演会等 2回 188人</p> <p>8. アンケート回収数 204件 (母集団 4,444人) アンケート結果 良い169.6%(142件)、普通17.6% (36件)、悪い14.9% (10件) 無記入7.8% (16件)</p>	A	<p>地方においても国立美術館の優れた美術作品を観覧する機会を提供した。</p> <p>また、開催館の要望を尊重したことも評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 平成12年度の実績を目標としているが、展覧会毎に目標を立てることが望ましい。</p>
	入館者数	5,979人以上	4,185人以上 5,979人未満	4,185人未満	4,444人	B	
(2)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>貸与 76件</p> <p>特別観覧 79件</p>	A	<p>公私立の美術館等に対して、美術作品の貸与や特別観覧を行い、広く国民へ公開することに貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も、貸与等の要望が増えると思われるが、美術作品の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を考慮しながら、幅広く応えることが望ましい。</p> <p>また、貸与・特別観覧の料金は、国の施設等機関であった頃の使用料に準拠しているが、今後、使用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料や対応を検討すること</p>

<p><b>3 調査研究</b>  (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。  収集品に関する調査研究  美術品に関する調査研究  収集・保管・展示に関する調査研究  美術史、美術動向、作者に関する調査研究  世界の映画作品や映画史に関する調査研究等  (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。  (2)調査研究の成果については、展覧会、美術品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 収集品の調査研究  長谷川潔作品についての再調査及び研究（内山武夫、島田康寛）  日本画作品についての再調査及び研究（内山武夫、島田康寛、河本信治、山野英嗣、松原龍一、尾崎信一郎、池田祐子、小倉実子）  秦テルヲ資料についての調査研究（島田康寛、小倉実子）  2. 展覧会のための調査研究  近代京都の工芸に関する調査研究（「近代七宝の美 - 並河靖之の技」、松原龍一）  アメリカの現代陶芸に関する調査研究（愛知県陶磁資料館等との共同研究）（「アメリカ現代陶芸の系譜1950-1990 自由の国のオブジェとうつつわ」、内山武夫、松原龍一）  ドイツ工作連盟に関する調査研究（「クッションから都市計画まで - ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相1900-1927」、池田祐子）  海外所在の近代日本美術品についての所蔵美術館との調査研究（「韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展」、内山武夫、島田康寛、松原龍一、小倉実子）  神坂雪佳の総合的研究（アメリカ・パーミングハム美術館との共同研究）（「神坂雪佳 - 琳派の継承・近代デザインの先駆者」、池田祐子）  横尾忠則の総合的研究（「横尾byヨコオ 描くことの悦楽：イメージの遍歴と再生」、河本信治）  秦テルヲの総合的研究（笠岡市立竹喬美術館との共同研究）（「デカダンから光明へ 異端画家・秦テルヲの軌跡 - そして竹久夢二・野長瀬晩花・戸張孤雁・・・」、島田康寛）  中央アジアの染織を中心とする工芸の調査研究（「ウズベキスタンの工芸」（未定）、内山武夫、河本信治）  他の美術館等における調査研究に対する協力  3. 科学研究費補助金による調査研究  琳派の系譜 その継承と交流 - 神坂雪佳を中心に（日本学術振興会）  4. その他助成金  近代日本美術における記録写真の調査と収集（日本科学協会）  国際シンポジウム（ムテジウスとドイツ工作連盟 - その歴史的意義について）（ポーラ美術振興財団）</p>	<p>A</p>	<p>が望ましい。    収集品や展覧会に関する調査研究は着実に進められ、美術品の収集、展覧会及び図録の刊行などに成果を上げた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得により充実した調査研究が行われた。  【より良い事業とするための意見等】  研究成果を積極的に公開し、学会等にも発表することが望ましい。</p>
<p><b>4 教育普及</b>  (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。  (1)-2 収集品等の美術品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。  (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。  (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。  また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。  (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。  (5)-3 デジタル化した収集品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 資料の収集及び公開  収集件数 751件  公開場所 4階、1階のフリースペースに設置  公開件数 51件  2. 広報活動の状況  刊行物による広報活動  美術館ニュース「視る」、カレンダー（展覧会予定表：3種）、年報、概要、パンフレット（和文）、パンフレット（外国語版7言語：英、独、仏、伊、西、中、韓）、ガイドブック  3. デジタル化の状況  今年度にデジタル化した美術品の件数 500件（目標500件）  平成14年度末デジタル化作品数 3,350件</p>	<p>A</p>	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収集品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。  【より良い事業とするための意見等】  美術品を広く紹介する方法として、インターネットを利用して情報を発信することは有効であるが、著作権契約に困難が伴うため、その対応について検討することが望ましい。また、著作権が切れたもの、公開の許諾が得られたものについては、公開することが望ましい。  なお、収集品のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。  所蔵図書データをホームページで公開することが望ましい。</p>
<p>(2)新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。  また、児童生徒を対象とした事業につ</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業  ワークショップ 2回 188人  講座・鑑賞教室 5回 368人  「生き方探究・チャレンジ体験」 4回 13人  2. 講演会等の事業  講演会 18回 1,394人  パフォーマンス 7回 (オープンスペースで開催のため鑑賞者数は不明)  シンポジウム 1回 72人  ワークショップ 1回 211人</p>	<p>A</p>	<p>児童生徒を含む多くの人々を対象とした講演会などを計画どおり着実に実施した。  また、新たに、中学生の就業体験を開始した。  【より良い事業とするための意見等】  講演会等の活動については、年齢・性別を問わず、幅広い国民各層を対象</p>

<p>いて、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">子供のためのワークショップ</td> <td>回数</td> <td>1回以上</td> <td></td> <td>0回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>8人以上</td> <td>6人以上 8人未満</td> <td>6人未満</td> <td>188人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">企画展における講演会</td> <td>回数</td> <td>2回以上</td> <td>1回以上 2回未満</td> <td>1回未満</td> <td>18回</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>766人以上</td> <td>536人以上 766人未満</td> <td>536人未満</td> <td>1,394人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アンケート</td> <td>80%以上</td> <td>56%以上 80%未満</td> <td>56%未満</td> <td>66.8% 回答数675件 良い66.8%(451件) 普通24.1%(163件) 悪い2.7%(18件) 無記入6.3%(43件)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学との協力によるシンポジウム</td> <td>回数</td> <td>1回以上</td> <td></td> <td>0回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>58人以上</td> <td>41人以上 58人未満</td> <td>41人未満</td> <td>72人</td> </tr> </table>	子供のためのワークショップ	回数	1回以上		0回	2回	人数	8人以上	6人以上 8人未満	6人未満	188人	企画展における講演会	回数	2回以上	1回以上 2回未満	1回未満	18回	人数	766人以上	536人以上 766人未満	536人未満	1,394人		アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	66.8% 回答数675件 良い66.8%(451件) 普通24.1%(163件) 悪い2.7%(18件) 無記入6.3%(43件)	大学との協力によるシンポジウム	回数	1回以上		0回	1回	人数	58人以上	41人以上 58人未満	41人未満	72人			<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>とするよう配慮し、本来業務に支障を来たさない程度に充実させることが望ましい。</p> <p>一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員等が解説できる方を検討することが望ましい。</p>
子供のためのワークショップ	回数		1回以上		0回	2回																																						
	人数	8人以上	6人以上 8人未満	6人未満	188人																																							
企画展における講演会	回数	2回以上	1回以上 2回未満	1回未満	18回																																							
	人数	766人以上	536人以上 766人未満	536人未満	1,394人																																							
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	66.8% 回答数675件 良い66.8%(451件) 普通24.1%(163件) 悪い2.7%(18件) 無記入6.3%(43件)																																							
大学との協力によるシンポジウム	回数	1回以上		0回	1回																																							
	人数	58人以上	41人以上 58人未満	41人未満	72人																																							
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力で展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 研修の取組</p> <p>学芸担当職員研修の実施 1人 (98日間)</p> <p>美術館等運営研究協議会の開催 95人 (2日間)</p> <p>2. 大学等との連携</p> <p>博物館実習生の受け入れ 41人 (6~12日間)</p> <p>大学院生インターンシップ 1人 (61日間)</p> <p>3. ボランティアの活用状況</p> <p>平成14年度は日韓共催ワールドカップサッカー大会開催に合わせて案内のための通訳ボランティアを導入 延べ13人</p>	<p>A</p>	<p>博物館実習生の受け入れやボランティアの導入についての検討など計画どおり着実に実施した。</p> <p>また、新たに学芸員担当職員の研修やインターンシップを受け入れた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>公私立の美術館では学芸員を長期間派遣するだけの余裕がないため、研修の実施に当たってはプログラムを更に検討することが望ましい。</p> <p>ボランティア等として、大学生・大学院生の活用も検討することが望ましい。</p>																																							
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. (社)京都市観光協会との連携</p> <p>(社)京都市観光協会が実施している「京都修学旅行パスポート」事業に協賛し、小中学生の入場料無料化とは別に「京都修学旅行パスポート」を持参の修学旅行の高校生を団体料金で入場できるようにした。また、受付にて絵はがきのプレゼントを、喫茶にて割引サービスを実施した。</p> <p>2. 京都織物卸商業組合との連携</p> <p>京都織物卸商業組合が実施している「京都きものパスポート」事業に協賛し、きもの産業の活性化及び入館者増を図るため、きもの着用者に特別展入場料金を団体料金で優待。</p> <p>3. 京都市交通局との連携</p> <p>京都市交通局が「スルッと関西」交通網を利用して実施する「京都1dayチケット」事業へ協賛し、当該チケット利用者に対し特別展料金を10%割引。</p> <p>4. 京都市と京都陸上競技協会との連携</p> <p>京都市と京都陸上競技協会とが実施する「京都シティーハーフマラソン」に協賛し、当該マラソン参加者に対し、共催展入場料金を団体料金扱いとした。</p> <p>5. 京都市産業観光局との連携</p> <p>京都市が制定した「伝統産業の日」に因み実施する事業に協賛し、きもの着用者を常設展料金を団体扱いとした。</p> <p>6. (財)大阪21世紀協会との連携</p> <p>(財)大阪21世紀協会が発行する関西で唯一の英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」に関西地区の美術館、博物館が展覧会情報を掲載し、経済界と連携した広報活動を行い、日本を訪れる外国人の入場者増を図る。</p> <p>7. 単独開催展覧会の前売券の発売</p> <p>民間企業とのタイアップし、利用者のチケット入手の利便性を高めるとともに、入場者増を図った。</p> <p>8. 共通観覧券の発売</p> <p>当館、京都国立博物館、京都市美術館と連携して、3館共通観覧券の発売を行った。</p>	<p>A</p>	<p>地元産業界と連携・協力するなど、積極的に渉外活動を行い入館者の獲得に努めた。</p> <p>また、京都国立博物館・京都市美術館と協力し、3館共通チケットを販売した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後も、地元の資源を有効に生かして積極的に行うことが望ましい。</p>																																							
<p><b>5. その他の入館者サービス</b></p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等</p> <p>障害者トイレ 1箇所(1階 1箇所)</p> <p>障害者エレベータ 1基</p> <p>段差解消(スロープ) 3箇所(正面玄関、喫茶室)</p> <p>貸出用車椅子 5台(座席昇降機能付き2台を含む)</p> <p>2. 音声ガイド</p> <p>展覧会名 カンディンスキー展</p> <p>貸出期間 平成14年6月8日~7月21日</p>	<p>A</p>	<p>小・中学生の全ての展覧会料金の無料化、説明パネルの充実、キャプションの文字を大きくするなど入館者の要望に応えた。</p> <p>また、喫茶室・ミュージアムショップでは、メニューや商品の充実にも努めた。</p> <p>サッカーのワールドカップ開催期間</p>																																							

<p>及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>		<p>貸出件数 3,670件(利用率5.5%)      展覧会名 ウィーン美術史美術館名品展      貸出期間 平成15年1月11日～3月23日      貸出件数 12,355件(利用率11.9%)</p> <p>3. 夜間開館等の実施状況      ア.開催日数 24日間(4月12日～10月20日までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後8時まで)      イ.入館者数 2,669人(総入場者数24,368人、夜間開館入場率11.0%)</p> <p>4. 小中学生の入場料の無料化      5. ワールドカップ時の外国人旅行者に対し常設展料金を無料化      6. アンケート調査      調査期間 平成14年11月12日～平成14年11月17日(6日間)      調査方法 調査票500部を配布、郵送による回答      アンケート回収数 91件(母集団41,731人)      アンケート結果 立地、施設、展示内容については概ね70点の評価を得たが、観覧料金、接客では60点程度の評価であった。</p> <p>7. 一般入館者等の要望の反映      作品内容を解説した説明パネルを多く取り入れた      キャプションの文字を見やすく大きくした</p> <p>8. レストラン・ミュージアムショップの充実      [レストラン] 設備の改修を行った      メニューの充実をはかった      [ミュージアムショップ] 展覧会ごとにそれぞれに関連した書籍や一般の書店では手に入りにくい美術図書を豊富に取り揃えた</p> <p>9. 友の会活動      会員数 12人(平成15年度友の会創設予定。ただし、友の会会員募集は平成15年3月18日より実施)</p>	<p>中は、外国人観光客に対し常設展の観覧料金を無料にするとともに、外国語のリーフレットを新たに作成し配布するなど、日本文化の理解促進に貢献した。</p>
--	--	--	---

## 【国立西洋美術館】

### 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化          (2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進          (3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進          (4)外部委託の推進          (5)事務のOA化の推進          (6)連絡システムの構築等による事務の効率化          (7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 業務の一元化          情報公開制度の共通的な事務を一元化し、本部を中心とした文書管理システムを稼働させた。人事記録、給与計算等の人事事務、収入、支出、保険契約等の会計事務及び保険請求事務等共済事務で各館で行っていたもののうち、共通的な事務を本部へ一元化し、業務の効率化を図っている。</p> <p>2. 省エネルギー等          ア.電気 使用量 5,366,350kwh (前年度比98.86%) 料金 84,660,519円(前年度比83.93%)          イ.水道 使用量 25,212 m3 (前年度比105%) 料金 19,318,466円(前年度比111%)          ウ.ガス 使用量 711,793 m3 (前年度比105.43%) 料金 33,352,709円(前年度比80.6%)          エ.一般廃棄物 25,225Kg (前年度比114.61%) 料金 467,667円(前年度比114.61%)          オ.産業廃棄物 10,355Kg (前年度比66.31%) 料金 266,636円(前年度比66.31%)</p> <p>3. 施設の有効利用          講堂等の積極的な利用を推進し、展覧会に関する講演会、レクチャーの他、外部団体の見学会、研修会、会議等への有効利用を図った。          講堂等の利用率 13.6% (50日/365日)</p> <p>4. 外部委託          下記の業務のほか今年度新たに、国立西洋美術館ホームページサーバ運用管理業務及び、ホームページ改訂・編集・更新業務について外部委託を実施した。24時間稼働し続けるサーバの保守業務や不正アクセス対策、ホームページのデザイン・レイアウト変更等の業務を、専門的な技術を持つ業者に委託した。          (1)会場管理業務 (2)設備管理業務 (3)清掃業務 (4)保安警備業務          (5)機械警備業務 (6)情報案内業務 (7)広報物等発送業務          (8)美術館情報システム等運用支援業務 (9)収入金等集配金業務          (10)レストラン業務 (11)ミュージアムショップ業務</p> <p>5. OA化          全館内にLANが整備されており、館内LANシステムの活用による職員への連絡業務効率化、ペーパーレス化を推進し、共通情報の各種ファイルを共有化することによって事務の省力化を図っている。また、収入、支出、財産管理等企業会計を効率的に処理するための会計情報システムを導入し、各種伝票作成時において帳簿類への自動記帳反映がされることにより、事務処理の正確・迅速化及び、省力化が成されるよう努めている。</p> <p>6. 一般競争入札          代替性の無い、極めて貴重な文化遺産である西洋美術作品を所蔵しているため、保安上の観点から会場管理業務、清掃業務については指名競争入札を実施している。また、複数の業者から見積書を徴収するなどして市場調査を行い、コストに対する意識を高め、経費の削減に努めている。</p> <p>7. 評議員会          開催回数 2回(平成14年6月3日(月)、平成15年3月17日(月))</p> <p>8. 研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善          外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図っている。</p>	<p>A</p>	<p>国立西洋美術館の業務全般について一元化や省エネルギー等に努力し1.3%の効率化を図った。          外部委託については、特に問題は認められなかった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】          今後も、美術館本来の業務に支障を来たさない程度に効率化を図ることが望ましい。          また、施設の有効利用を積極的に検討することが望ましい。</p>		

効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	1. 304% 効率化係数計算式 $\left( \frac{A - B}{B} \right) \div B$ $(985,376,998 - 972,523,228) \div 985,376,998 = 0.01304$ $A : (14年度予算額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) \div 0.99$ $(986,115,500 - 38,061,089 + 27,468,817) \div 0.99 = 985,376,998$ $B : 14年度決算額 - 14年度特殊要因決算額$ $975,523,228 - 3,000,000 = 972,523,228$	B
---------	--------	------------------	--------	---	---

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<b>1 収集・保管</b> (1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。 <b>(国立西洋美術館)</b> 中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。 (1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1. 購入 9件 2. 寄贈 1件 3. 寄託 2件 4. 特記事項 基本的収集方針に基づき、美術作品購入選考委員会及び評価員による審議のもと、美術作品9点を購入。コレクションの強化を図った。 寄贈1点(絵画作品)及び、寄託2点(絵画作品)の受入を行った。今後も美術作品の寄贈・寄託の受入を推進し、展示の充実、研究資料として積極的な活用を図っていく。 平成13年度に、かつて松方コレクションに属していた計6点のタピスリーの寄贈をいただいたことで、今年度、これら作品を初めて公開するべく、小企画展「織りだされた絵画 - 国立西洋美術館所蔵17 - 18世紀タピスリー - 」を会場料金無料で開催し、寄贈作品の積極的活用を図った。	A	国立西洋美術館の収集方針に基づき美術作品を収集し、着実にコレクションの充実を図った。  <b>【より良い事業とするための意見等】</b> 今後とも、作品の分野や歴史性に配慮して収集することが望ましい。
(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。 (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1. 温湿度(空調実施時間 24時間) 展示会場 通 期: 温度20~22 湿度50~55% 夏季のみ: 温度22~24 湿度50~55% 作品への影響を最低限とするため、上記範囲の中で一定の温湿度となるよう努めている。 収蔵庫 温度20~22 湿度50~55% 2. 照明 器具: 蛍光灯(紫外線カット)、スポットライト(紫外線・赤外線カットフィルター) 照度: 紙作品などの光に弱いもの 50ルクス以下 それ以外の作品 200ルクス以下 3. 空気汚染 館内数十箇所において空気汚染調査を継続的に実施。また、工事後には必ず空気測定を行い、発生した有害物質が無くなったことを確認後に作品を展示している。 新館展示室内4箇所に自動風除塵を設置した。これにより空調の安定と、空調機器の負荷を下げる点で大きな効果を得ることができた。なお、この新設工事に伴う空気汚染調査も併せて実施した。 東京国立文化財研究所と協力して、清掃用ワックスから発生する有害物質について調査を行った。 4. 防災 火災総合受信盤及び監視カメラによる監視(中央監視室・総合受付) 消火設備、自動火災報知器を設置。 上野消防署の協力の元、避難訓練、消火訓練、119番通報訓練を行った。訓練後、更に手際良く消火活動を行えるよう、館全体の消火器等の配置図を職員に周知し、防災意識を高めた。 5. 防犯 開館時間中は監視・警備員による巡回警備と立哨警備の併用及び、監視カメラによる警備。 絵画には美術館システムによる機械警備、収蔵庫は随時監視カメラと機械警備の併用。 保安対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防犯マニュアル(作品接触、破壊、盗難)の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行った。 6. 特記事項 作品点検調査作成件数 2件(平成14年度末作品点検調査作成件数: 絵画作品352点、ブロンズ彫刻作品54点) 保存機能の整備と充実を図り、新館に新たな版画素描専用の収蔵庫、閲覧室の建設工事を着工した。 夏期の展示会場内温度については、来館者へ配慮し温度を2度高く設定している。	A	保存・修復の専門的な知識を持つ職員を配置し、温湿度や照明などに配慮した適切な保管がされている。 また、保存カルテも着実に作成した。  <b>【より良い事業とするための意見等】</b> 美術作品は貴重な国民の財産であるため、今後とも、より良い保管環境の整備に努めることが望ましい。
(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1. 絵画 3件 版画 8件 素描 4件 タピスリー 7件 彫刻 4件 額縁 1件 2. 特記事項	A	保存・修復の専門的な知識を持つ職員が配置され、緊急を要するものから計画的に修理を行った。 また、修理データも確実に記録した。 特に、タピスリー「庭園婦女の図」は、海外の美術館の協力を得て質の高い修理を行った。

<p>画的に修理を実施。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 (3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>			<p>当館では保存修復室及び保存科学室を設置しており、このスタッフを中心として外部技術者を活用し、収蔵作品の適切な保存、調査及び、計画的修復を行っている。また、他機関との情報交換の円滑化、当館に寄せられる修復・保存上への協力要請への対応等、美術館等への修復保存に関する寄与を図った。修理業者が保存修復を行う際には研究員の監督指導の下で行っており、作品の取り扱いについてより一層の注意を図り、保存修復処置の報告書を提出することを指導している。 タピスリー「庭園婦女の図」修復処置の実施にあたり、ニューヨーク・メトロポリタン美術館染織修復部と連携し、技術協力を得て修復を実施した。</p>	<p>【より良い事業とするための意見等】 保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実に、4館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>
<p><b>2 公衆への観覧</b> (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。 (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。 <b>(東京国立近代美術館)</b> 目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。 (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。 (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実に資する観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。 なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。 また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展 展示替 4回(新収作品展示、貸出、作品修復に伴う一部作品の入替) 版画展示 2回(「クリシェ・ヴェール」,「受難伝」) 子どもから楽しめる美術展「手と心-モネ、ドニ、ロダン」 1回(常設展と併設) 小企画展「織りだされた絵画-国立西洋美術館所蔵17-18世紀タピスリー-」 1回(常設展と併設) 2. 企画展等 3回(中期計画記載回数:年3回程度) 共催展「ブラド美術館-スペイン王室コレクションの美と栄光」 自主企画展「大英博物館所蔵フランス素描展-フォンテーヌブローからヴェルサイユへ-」 共催展「ウンスロップ・コレクション展-フォッグ美術館所蔵19世紀イギリス・フランス絵画」 3. 入場者数 983,045人(平成13年度 642,465人) 4. 特記事項 東京都、神奈川、埼玉、千葉各県教育委員会と展覧会広報について連携し、広報活動についての充実に図った。 アメリカ、ハーヴァード大学付属フォッグ美術館と交流し、アメリカ屈指の美術コレクションの一つであるウンスロップ・コレクションを日本で初公開する展覧会を開催した。</p>	<p><b>A</b></p> <p>国立西洋美術館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、「ブラド展」など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展など様々な内容のものを行った。 また、目標の入館者数約70万人を超える約98万人が観覧し、アンケートでも8割以上から「良かった」との回答を得ている。 特に、平成13年度に収集したタピスリーを「織りだされた絵画」展として無料で公開したことも評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 平成14年度の企画展がいずれも外国の所蔵名品展であったが、更に主体的な企画力を発揮できる展覧会も検討することが望ましい。</p>
<p>常設展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成14年4月1日~平成15年3月31日(302日間) 2. 会場 本館 1階~2階、新館 1階~2階、企画展示館 地下1階 3. 出品点数 187件 4. 入場料金 一般420円、高大生130円、一般(団体)210円、高大生(団体)70円、小中学生無料 ただし、平成15年1月14日~2月14日は、館内整備による新館閉室のため、一般200円、高大生70円、小中学生無料とした。 5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入の合計)17,042,770円) 6. アンケート回収数 120件(母集団 336,699人) アンケート結果 良い91.7%(110件) 普通7.5%(9件) 悪い0.8%(1件)</p>	<p><b>A</b></p> <p>国立西洋美術館の常設展はその名の通り、基本的に展示替えは行わず代表的な所蔵作品を年間を通して展示しており、目標を上回る人々が観覧し、アンケートでも約9割から「良かった」との回答を得ている。その他に、入館者を楽しませるため「子どもから楽しめる美術館」や版画・素描コレクション展を行った。 特に、平成13年度に収集したタピスリーを無料で公開した「織りだされた絵画」展は、美術史への新しい観点を提示した充実したものであった。</p>
<p>入館者数</p>	<p>86,000人以上</p>	<p>60,200人以上 86,000人未満 60,200人未満</p>	<p>336,699人</p>	<p>A</p>
<p>(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>共催展 「ブラド美術館展」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成14年3月5日(火)~平成14年6月16日(日)(67日間) 2. 会場 国立西洋美術館 企画展示館 地下2~地下3階 3. 主催 国立西洋美術館、読売新聞社 協力 日本航空、日本通運、西洋美術振興財団 協賛 清水建設、トヨタ、KDDI、JR東海、JR西日本、東レ 特別協力 JR東日本 4. 出品点数 77件 5. 入場料金 一般1,300円、高大生900円、一般(団体)950円、高大生(団体)510円、一般(割引)1,200円、高大生(割引)850円、一般(前売)1,100円、高大生(前売)800円、小中学生無料 6. 入場料収入 108,713,420円 7. 展覧会の内容 世界屈指の美術館であるスペインの国立ブラド美術館の絵画コレクションを、日本において初めて大規模に紹介する展覧会である。 本展は、これら"ブラドの華"ともいべき作品群の中から5点のベラスケス、6点のゴヤをはじめとする代表的作品77点(絵画76点、彫刻1点)を選び、現在に継承されるその美の真髄を伝え、スペイン美術の流れを、王室コレクションとの関わりを通じて辿ってみたいものである。 8. 講演会等 4回 参加人数 445人 スライドトーク等 3回 参加人数 361人 イヤホンガイドの実施 利用者数39,174人 9. アンケート回収数 600件(母集団 395,962人) アンケート結果 良い180.9%(485件) 普通17.6%(106件) 悪い11.3%(8件) 無回答0.2%(1件)</p>	<p><b>A</b></p> <p>ベラスケス、ゴヤを中心とするブラド美術館の重要作品を日本で初めて本格的に紹介したもので、王室コレクションの成立史解明といった視点からも重要であった。また、平成14年度、国内で開催された展覧会の中で最も入館者数が多く、アンケートでも8割以上から「良かった」との回答を得ている。</p>
<p>企画展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を</p>	<p>1. 開催期間 平成14年7月9日(火)~平成14年9月1日(日)(48日間)</p>	<p>注目されることの少ない素描展を愛</p>



<p>示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。</p> <p>収蔵品に関する調査研究 美術作品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等</p> <p>(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2)調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>		<p>踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>(1) 収蔵品の調査研究 旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究 中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究 美術館情報資料に関する調査研究 美術館教育に関する調査研究</p> <p>(2) 展覧会のための調査研究 展覧会に関わる調査研究</p> <p>(3) 科学研究費補助金による調査研究 「油絵具の乾燥における脂肪酸組成の変化に対する顔料の影響」の研究 「博物館の機能及びその効果的な運営の在り方に関する実証的研究」の研究(研究分担者として)</p> <p>(4) 保存・修理に関する調査研究 西洋美術作品の保存修復に関する調査研究</p> <p>2. 客員研究員等の招聘実績 7人 美術館教育に関する調査研究 石造彫刻の洗浄処置ならびに表面処理の研究 作品輸送時における振動調査の共同研究 情報、広報事業等に関する指導・助言 大英博物館所蔵フランス素描展調査研究、企画等協力 ウインスロップ・コレクション展調査研究、企画等協力 展覧会に関する音楽プログラムの調査研究、企画等協力</p> <p>3. 大学院との連携協力 平成14年度より、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻の教育・研究における連携・協力について協定を締結し、2名の大学院生を受け入れた</p> <p>4. 特記事項 外国人研究員3名の招聘、大学等における非常勤講師、他機関の運営委員会・作品購入委員会に参加するなどして、国内外の施設機関及び、外部研究者と交流・意見交換を行い、積極的な研究成果の発表に努めた。 平成14年度より初めて国立西洋美術館在外研究員を開始し、1名を派遣した。 「1910年代における仏独の前衛画家たちの交流と相互影響に関する調査研究」</p>	<p>A</p>	<p>着実に行われ、美術作品の収集、展覧会及び図録の刊行などに成果を上げた。 その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 研究成果を積極的に公開し、学会等にも発表することが望ましい。</p>
<p><b>4 教育普及</b></p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 資料の収集及び公開 収集件数 2,035件 公開場所 企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター(西洋美術史などの研究者を対象とした資料センターとして、西洋美術史研究図書、雑誌、マイクロフィッシュ等の資料約104,900点を所蔵し公開している。) 本館1階 資料コーナー(一般の利用者向けに本館1階のフリーゾーンに設置し、展覧会カタログ、年報、要覧など、過去およそ10年分の当館の出版物と、全国美術館案内や美術事典などを公開している。)</p> <p>利用者数 178人 貸出件数 593件(請求による出納件数のみ、開架書架の利用件数は含まない) 本館1階資料コーナーはフリーゾーンとしているため多数の利用者があるが、利用者数の集計はしていない</p> <p>2. 広報活動の状況 刊行物による広報活動 『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』(年4回発行(春、夏、秋、冬))等の刊行物を発行し、美術館の理解と利用の促進に向けて広報活動を行い、積極的に情報の発信に努めている。 ホームページによる広報活動 ホームページでは、コレクション、展覧会情報、講演会・スライドトーク等のイベント、交通・利用案内、館内施設案内などを常時掲載し、適時更新を行っている。海外からのアクセス向けには英語版のホームページを整備し、ホームページの活用と普及及び広報体制の充実を積極的に推進している。 今年度は、視覚障害者向け音声案内機能の追加や、携帯電話用(iモード等)のコンテンツを作成して広報機能の充実を図った。また、インターンシップ募集等の事業案内についてホームページを積極的に利用し、申請書用紙のダウンロード等の情報配信を行った。 マスメディア等の利用による広報活動 展覧会や美術館の活動についてマスメディア等への情報提供を行い、取材、撮影への協力を積極的に行うなどして美術館事業の広報普及に努めている。</p> <p>3. デジタル化の状況 今年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数 949件</p>	<p>A</p>	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。 また、ホームページを全面的に改定し内容の充実を図り、アクセス件数を伸ばした。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 美術作品を広く紹介する方法として、インターネットを利用して情報を発信することは有効であるが、著作権契約に困難が伴うため、その対応について検討することが望ましい。また、著作権が切れたもの、公開の許諾が得られたものについては、公開することが望ましい。 なお、収蔵品のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。 研究資料センターを多くの研究者等が利用できるよう、広報を積極的に行うことが望ましい。 所蔵図書のデータをホームページで公開することが望ましい。</p>
<p>(2)新学習指導要領、完全学校週5日制の実</p>	<p>講座・講習会等の実施状</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を</p>	<p>1. 児童生徒・教員を対象とした事業</p>		<p>児童生徒を含む多くの人々を対象と</p>

<p>施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>況</p>	<p>踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>「手と心 モネ、ドニ、ロダン」展 1回 子どもから楽しめる美術展「手と心 モネ、ドニ、ロダン」は、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず常設の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。</p> <p>ワークショップ(創作・体験プログラム) 6回 75人 ウィークエンド・ファミリー・プログラム ツール貸出件数 212件 利用者 642人 スクール・ギャラリートーク 28校 679人 先生(小・中・高等学校教員)のための鑑賞プログラム 7回 188人 団体訪問者(学校・団体)への解説 28校 860人</p> <p>2. 講演会等の事業 講演会 9回 1,058人 スライドトーク 3回 361人 ギャラリートーク 6回 170人 音楽プログラム 1回 100人 イヤホンガイド 3回 58,358件</p>	<p>A</p>	<p>した講演会などを計画どおり着実に実施した。</p> <p>特に、「子どもから楽しめる美術展」や「先生のための鑑賞プログラム」など児童生徒を対象とした活動に積極的に取り組んだことを評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員等が解説できる方策を検討することが望ましい。</p>																																																																						
	<table border="1"> <tr> <td>子供から楽しめる美術展(創作体験プログラム)</td> <td>回数</td> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> <td>64回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>40人以上</td> <td>28人以上 40人未満</td> <td>28人未満</td> <td>2,256人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>先生(小中学校教員)のためのプログラム</td> <td>回数</td> <td>2回以上</td> <td>1回</td> <td>0回</td> <td>7回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>140人以上</td> <td>98人以上 140人未満</td> <td>98人未満</td> <td>188人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>企画展における講演会</td> <td>回数</td> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> <td>9回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>770人以上</td> <td>539人以上 770人未満</td> <td>539人未満</td> <td>1,058人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アンケート</td> <td>80%以上</td> <td>56%以上 80%未満</td> <td>56%未満</td> <td>92.38% 回答数381件 良い92.38%(352件) あまり良くない3.15%(12件) 良くない0.27%(1件) 無回答4.2%(16件)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>スライドトーク等の実施</td> <td>回数</td> <td>5回以上</td> <td>4回以上 5回未満</td> <td>4回未満</td> <td>10回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>700人以上</td> <td>490人以上 700人未満</td> <td>490人未満</td> <td>631人</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アンケート</td> <td>80%以上</td> <td>56%以上 80%未満</td> <td>56%未満</td> <td>92.95% 回答数156件 良い92.95%(145件) あまり良くない0.65%(1件) 無回答6.4%(10件)</td> <td>A</td> </tr> </table>	子供から楽しめる美術展(創作体験プログラム)	回数	3回以上	2回	2回未満	64回	A		人数	40人以上	28人以上 40人未満	28人未満	2,256人	A	先生(小中学校教員)のためのプログラム	回数	2回以上	1回	0回	7回	A		人数	140人以上	98人以上 140人未満	98人未満	188人	A	企画展における講演会	回数	3回以上	2回	2回未満	9回	A		人数	770人以上	539人以上 770人未満	539人未満	1,058人	A		アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	92.38% 回答数381件 良い92.38%(352件) あまり良くない3.15%(12件) 良くない0.27%(1件) 無回答4.2%(16件)	A	スライドトーク等の実施	回数	5回以上	4回以上 5回未満	4回未満	10回	A		人数	700人以上	490人以上 700人未満	490人未満	631人	B		アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	92.95% 回答数156件 良い92.95%(145件) あまり良くない0.65%(1件) 無回答6.4%(10件)	A	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 研修の取組 第11回美術館・歴史博物館学芸員専門研修会 58名 他の機関が実施する研修への協力を実施 133人</p> <p>2. 大学等との連携 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻の教育・研究における連携・協力 2名 国立西洋美術館インターンシップ 8名(西洋美術史2名、教育普及6名) 博物館実習生 1名(日本大学芸術学部)</p> <p>3. ボランティアの活用状況 ボランティア導入に向けての検討を実施した。今後も引き続きボランティア受け入れについて検討を進める。</p>	<p>A</p>	<p>文化庁の学芸員専門研修会への協力や博物館実習生等の受入など計画どおり着実に実施した。</p> <p>特に、東京大学との協定に基づき、インターンシップを積極的に受入れた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ボランティアの活用を検討することが望ましい。また、ボランティア等として、大学生・大学院生の活用も検討することが望ましい。</p>
子供から楽しめる美術展(創作体験プログラム)	回数	3回以上	2回	2回未満	64回	A																																																																					
	人数	40人以上	28人以上 40人未満	28人未満	2,256人	A																																																																					
先生(小中学校教員)のためのプログラム	回数	2回以上	1回	0回	7回	A																																																																					
	人数	140人以上	98人以上 140人未満	98人未満	188人	A																																																																					
企画展における講演会	回数	3回以上	2回	2回未満	9回	A																																																																					
	人数	770人以上	539人以上 770人未満	539人未満	1,058人	A																																																																					
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	92.38% 回答数381件 良い92.38%(352件) あまり良くない3.15%(12件) 良くない0.27%(1件) 無回答4.2%(16件)	A																																																																					
スライドトーク等の実施	回数	5回以上	4回以上 5回未満	4回未満	10回	A																																																																					
	人数	700人以上	490人以上 700人未満	490人未満	631人	B																																																																					
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	92.95% 回答数156件 良い92.95%(145件) あまり良くない0.65%(1件) 無回答6.4%(10件)	A																																																																					
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 新聞社、企業、メセナ財団より協力及び、支援を得て、企画・運営、渉外、利用者サービス等の充実を図った。</p> <p>東京新聞より「大英博物館所蔵フランス素描展」を開催するにあたり、渉外、広報活動、展示開催経費(作品貸出料、展覧会図録作成費、展示品損害保険料)について支援及び、助成を得た。</p> <p>日本航空より「大英博物館所蔵フランス素描展」を開催するにあたり、作品輸送及び、クーリエの航空運賃について割引支援を得た。</p> <p>(財)東芝国際交流財団より「大英博物館所蔵フランス素描展」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。これにより作品リスト等を作成し入場者へ無料配布した。</p> <p>読売新聞社より西洋美術振興のための助成金を得た。これによりブリーフガイドを作成し入場者及び、修学旅行の計画のための学校等へ無料配布した。</p>	<p>A</p>	<p>展覧会や教育普及事業において企業や財団から助成金や広報の支援を受け、事業の充実を図った。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も、引き続き積極的に行うことが望ましい。</p>																																																																						

			<p>(財)西洋美術振興財団より講演会等教育普及事業に関する助成を得た。 東京、神奈川、埼玉、千葉教育委員会と、小・中生観覧料金無料化PR活動を連携して行った。 上野駅ビル・アトレ上野内のショップと、国立西洋美術館入場券の半券を持参することで、優待が受けられるタイアッププランを実施した。 「大英博物館所蔵フランス素描展」開催に伴い、英国の文化・芸術・世界遺産を来場者に紹介する英国政府観光庁のキャンペーンに協力した。 地元の上野商店街(「上野のれん会」)への館としての入会を前提に検討した。 2. 展覧会への協力・支援に関する特典として、展覧会協賛企業特別内覧会を開催した。 「ブラド美術館展」展覧会協賛企業特別内覧会 3. 他機関と共同・連携し、広報活動を行った。 平成14年5月18日「国際博物館の日」に上野地区の各博物館・美術館と共同で、上野公園来園者に対して開催情報等の広報活動を行った。 東京国立博物館、国立科学博物館と共同で情報誌への広報広告を企画し、掲載を行った。</p>	
<p><b>5. その他の入館者サービス</b> (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。 (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。 (2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。 (3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 障害者トイレ 5箇所(本館1階1箇所、企画展示館地下1階1箇所、企画展示館地下2階3箇所) 障害者エレベータ 4基(新館1基、企画展示館3基) 段差解消(スロープ) 2箇所(正門、本館19世紀ホール) 風除扉の自動扉化 6箇所(本館2箇所、新館4箇所) 貸出用車椅子 10台(1階インフォメーション) 貸出用杖 10本(1階インフォメーション) 盲導犬・身体障害者補助犬を伴う利用可能 国立西洋美術館ホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備 風除扉の自動扉化のうち、新館の4箇所は平成14年度に新設した。 貸出用車椅子のうち、6台は平成14年度に増設した。 貸出用杖のうち、5本は平成14年度に増設した。 国立西洋美術館ホームページ視覚障害者向けの音声案内機能は平成14年度に追加した。 2. 観覧環境の充実 特別展・共催展において音声ガイドの実施。 「ブラド美術館」展、「大英博物館所蔵フランス素描展」、「ウインスロップ・コレクション」展 展示解説ビデオを上映。 「ブラド美術館」展、「前庭彫刻 免震化と修復」 ジュニアパスポート、作品リスト(日本語版、英語版)及び、ワークシートを作成し、無料配布を実施。 国立西洋美術館ガイド、展覧会案内チラシ、美術館情報等の広報印刷物を無料配布。 解説パネル、会場内サイン、キャプション等の見直しと整備を実施。 『ポケットガイド西洋版画の見かた』を平成14年度初めて作成し、ミュージアムショップにおいて販売。 3. 夜間開館等の実施状況 夜間開館実施状況 開催日数 50日 小中学生の入場料の低廉化 以外の入場者料金の取り組み ア. 常設展については毎月第2・第4土曜日及び、文化の日を無料観覧日としている。 イ. 小企画展「織りだされた絵画」の入場料金を無料とした。 ウ. 2002年ワールドカップサッカー大会の開催に伴い、パスポートを掲示した外国人の常設展入場料金を無料とした。 エ. 館内整備による新館閉室に伴い、閉室期間中の入場料金を割引。 オ. 平成15年度から学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を図るための準備を行った。 その他の入館者サービス ア. 館内の売札所において、自主企画展・共催展前売券を販売した。 イ. 自主企画展「大英博物館所蔵フランス素描展」では、前売券を、東日本旅客鉄道、チケット・ぴあ、東京音響、板橋区中小企業振興公社でも販売した。 ウ. 展覧会の混雑時は、開館時間の延長や、開館時間を早めて対応している。 エ. 4月29日から5月5日にかかる一連の連休期間は休館をしないこととしている。 オ. ロダンの彫刻のある前庭及び、本館1階のレストラン、ミュージアムショップ、デジタルギャラリー、資料コーナーがあるスペースをフリーゾーンとしている。 4. 一般入館者等の要望の反映 貸出用の車椅子及び、杖を増設。また、新館会場の風除扉4箇所を自動扉化し、バリアフリー化を推進。 館内の売札所において当館共催展の前売券販売を開始。 小企画展「織りだされた絵画」を入場料金無料とした。 5. レストラン・ミュージアムショップの充実 レストラン 季節に応じたメニューの取り扱いを開始。 セットメニューを増やすなどして、利用しやすい料金設定に努めた。 お客様の要望に応じてラストオーダー時間の変更をするなど対応。 レストランの禁煙化を実施。 ミュージアムショップ 絵葉書の品揃えを増やし、種類の入れ替えを行った。 書籍の充実を図り、子どもから大人や専門家まで対応が可能な幅広い品揃えに努めた。 遠方のお客様にはカタログ等の通信販売にも対応。</p>	<p><b>A</b></p> <p>小・中学生の全ての展覧会料金の無料化、会場の自動扉化、ホームページでの視覚障害者向けの音声案内、ジュニアパスポートの無料配布など入館者サービスの向上に努めた。また、レストランのメニューやミュージアムショップの商品の充実にも努めた。 サッカーのワールドカップ開催期間中は、外国人観光客に対し常設展の観覧料金を無料にするとともに、外国語のリーフレットを配布するなど、日本文化の理解促進に貢献した。</p>

## 【国立国際美術館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2)省エネルギー、廃棄物減量化リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4)外部委託の推進</p> <p>(5)事務のOA化の推進</p> <p>(6)連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行い、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			<p>1.業務の一元化：本部において、これまで行っている人事、共済、給与事務の一元化に加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2.省エネルギー等</p> <p>ア.電気 使用量 892,586kwh (前年度比 95.81%) 料金 23,294,850円 (前年度比 93.95%)</p> <p>イ.水道 使用量 5,650 m3 (前年度比 110.61%) 料金 965,587円 (前年度比 105.09%)</p> <p>ウ.ガス 使用量 395.71 m3 (前年度比 83.84%) 料金 48,706円 (前年度比 78.63%)</p> <p>エ.一般廃棄物 10,340Kg (前年度比 97.34%) 料金 228,000円 (前年度比 97.34%)</p> <p>オ.産業廃棄物 0Kg (前年度比 - %) 料金 0円 (前年度比 - %)</p> <p>3.施設の有効利用：講堂の利用率3% (12日/365日)</p> <p>4.外部委託：14年度に下記業務のほか、看視業務、庶務課業務、文書等運送業務の外部委託を行い業務の効率化を図った。</p> <p>(1)常駐警備業務 (2)機械警備業務 (3)清掃業務 (4)レストラン運営業務</p> <p>(5)集配金取次業務 (6)情報システム保守業務 (7)電気機械設備運転業務</p> <p>(8)ミュージアムショップ運営業務 (9)昇降機設備保全業務</p> <p>5.OA化：館内LANを利用した情報の共有、Eメールによる事務連絡に活用されており、事務の効率化が図られている。</p> <p>6.一般競争入札：14年度において一般競争入札に付す案件はなかったが、随意契約においても複数業者に仕様説明を行い、見積書を徴収することにより経費の軽減を図っている。</p> <p>7.評議員会：開催回数 1回(平成15年3月10日(月))</p> <p>8.研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善</p> <p>文部科学省、人事院等の主催する実務研修や階層別研修などを受講することにより、職員の資質の向上が図られた。</p>	A	<p>国立国際美術館の業務全般について一元化や省エネルギー等に努力し1.6%の効率化を図った。</p> <p>外部委託については、特に問題は認められなかった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後も、美術館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図ることが望ましい。</p>
	効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	<p>1.579%</p> <p>効率化係数計算式 (A - B) ÷ B</p> <p>(506,279,586 - 498,282,902) ÷ 506,279,586 = 0.01579</p> <p>A:(14年度予算額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99</p> <p>(499,581,790 - 93,700 + 1,728,700) ÷ 0.99 = 506,279,586</p> <p>B:14年度決算額 - 14年度特殊要因決算額</p> <p>500,497,102 - 2,214,200 = 498,282,902</p>	A	

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(国立国際美術館)</p> <p>日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために、主に1945年以降の日本及び欧米の現代美術並びに国際的に注目される国内外の同時代の美術を系統的に収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			<p>1.購入 285件</p> <p>2.寄贈 21件</p> <p>3.寄託 27件</p> <p>4.特記事項</p> <p>収蔵品の欠落部分を補い、陳列を体系的に充実させるため、美術作品等選考委員会及び評価委員会の審議を踏まえ、美術作品の購入に努めるとともに、当館にふさわしいと認められた作品について積極的な寄贈受入を行うなど、自己点検評価に記したような成果をあげた。</p>	A	<p>国立国際美術館の収集方針に基づき数多くの美術作品を収集し、着実にコレクションの充実を図った。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後も、積極的に収集することが望ましい。</p>
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			<p>1.温湿度</p> <p>展示会場(空調実施時間 9:30~17:00)</p> <p>夏季: 温度 25 湿度 50%</p> <p>冬季: 温度 20 湿度 50%</p> <p>収蔵庫(空調実施時間 9:30~17:00)</p> <p>夏季、冬季: 温度 22 湿度 55%</p> <p>2.照明 館内数十ヶ所で継続的な調査を行い、必要に応じた改善を行っている。</p> <p>3.空気汚染 館内数十ヶ所で継続的な調査を行い、必要に応じた改善を行っている。</p> <p>4.防災 監視カメラの設置及び警備員による定期巡回等、必要に応じた対策を行っている。</p> <p>5.防犯 監視カメラの設置及び警備員による定期巡回等、必要に応じた対策を行っている。</p> <p>6.特記事項 年間を通じた適正な温湿度の管理により、作品の保存環境の整備に努めている。また、保存カルテの作成についても、継続的に検討していきたい。</p>	A	<p>温湿度や照明などに配慮した適切な保管がされている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>美術作品は貴重な国民の財産であるため、外部の研究者の協力を得るなどして、より良い保存環境の整備に努めることが望ましい。</p> <p>今後とも保存カルテ作成について検討し、速やかに行うことが望ましい。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等に</p>	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を			<p>1.修理件数 9件</p>		緊急を要するものから計画的に修理

<p>については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。</p> <p>緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。</p> <p>伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>		<p>踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>・水彩・素描 1件 ・版画 3件 ・彫刻 5件</p> <p>2. 特記事項 修理方法等について、研究員が専門的立場から指導を行っている。 データベース化については必要性を認識しており、今後に向け検討していきたい。</p>	B	<p>を行ったが、今後は、より積極的に取り組む必要がある。 なお、修理データは確実に記録した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実に行き、4館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>			
<p><b>2 公衆への観覧</b></p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p>(東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度</p> <p>(京都国立近代美術館) 年6～7回程度</p> <p>(国立西洋美術館) 年3回程度</p> <p>(国立国際美術館) 年5～6回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実に資する観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。</p> <p>なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p> <p>(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展(展示替 4回)</p> <p>2. 特別展・共催展・企画展 6回 「福島敬恭 こころの中のこころMIND OF UNIVERSE」展 「イタリア抽象絵画の巨匠 アフロ プリッリ フォンタナ」展 「いま、話そう 日韓現代美術展」 「20世紀版画の巨匠 浜口陽三展」 「畠山直哉写真展」 「現代美術への視点 連続と侵犯」展</p> <p>3. 常設展・特別展・共催展・企画展の入館者数 50,090人(平成13年度 118,563人)</p> <p>4. 海外交流展 1回 「目撃者 安斎」展 入館者数 1,700人</p>	A	<p>国立国際美術館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、現代美術に関する様々な内容の企画展、国内外に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展・海外交流展など、難解と思われがちな現代美術への理解を高めるよう努力し、目標の入館者数約9万6千人を超える約9万9千人が観覧した。</p> <p>大阪市北区中之島の新館移転後は、より多くの人々に観覧してもらえるよう企画や広報等を検討する必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 入館者にわかりやすく満足感を与えるよう展示を工夫することが望ましい。 積極的にアンケートを行い、その結果を分析して今後の事業の企画や広報に活用することが望ましい。 現代美術に対する収集や展覧会の企画を国立美術館内で協議し、積極的に行うことが望ましい。</p>			
	<p>常設展(企画展含む)</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 302日間</p> <p>2. 会場 地階、1階、2階展示場</p> <p>3. 出品作品数 延503件</p> <p>4. 入場料金 大人420円、大学・高校生130円、 大人(団体)210円、大学・高校生(団体)70円</p> <p>5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入 408,370円)(目標入場料収入 311,000円)</p> <p>6. アンケート回収数 1,634件(母集団 50,090人) アンケート結果 良い 44%(711件) 普通 42%(692件) 悪い 7%(112件)</p>	A	<p>国立国際美術館の方針に基づいて体系的に収集した約5千点の収蔵品(寄託を含む)により、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。また、入館者に楽しんでもらえるよう展示替えやテーマを設定した特集展示を行うなど、現代美術への理解を高めるため努力した。</p> <p>今後とも、多くの国民が常設展を観覧してもらえるよう、効果的な広報、4館の収蔵品の管理換えを含めた展示の充実、企画展の観覧者が常設展も観覧してもらえるような工夫を検討することが望ましい。</p>			
	<p>入館者数</p>	<table border="1"> <tr> <td>49,000人以上</td> <td>34,300人以上 49,000人未満</td> <td>34,300人未満</td> </tr> </table>	49,000人以上	34,300人以上 49,000人未満	34,300人未満	<p>50,090人</p>	A	
49,000人以上	34,300人以上 49,000人未満	34,300人未満						
	<p>企画展</p> <p>「福島敬恭 こころの中のこころMIND OF UNIVERSE」展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 平成14年 4月11日～平成14年 5月28日</p> <p>2. 会場 国立国際美術館</p> <p>3. 主催 国立国際美術館</p> <p>4. 協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団</p> <p>5. 出品点数 33件</p> <p>6. 入場料金 大人420円、大学・高校生130円、 大人(団体)210円、大学・高校生(団体)70円</p> <p>7. 入場料収入 711,820円(目標入場料収入 622,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 1960年代以降おもに関西を拠点として、さまざまな素材によるユニークな立体造形や平面作品など幅広い創作活動を展開している美術家福島敬恭(1940年鳥取県生まれ)の初期作品から近作までを紹介した。</p> <p>8. 講演会等 4回 277人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)</p> <p>9. アンケート回収数 439件(母集団 6,229人) アンケート結果 良い 45%(196件) 普通 39%(171件) 悪い 13%(55件)</p>	A	<p>長いキャリアを持ち、関西を中心として活躍している作家を積極的に再評価したもので、体験型の作品の展示、フィルム作品の上映、作家自身による講演会を開催し、現代美術の楽しさを伝える努力が行われた。</p> <p>また、目標を上回る人々が観覧した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 作家自身による解説は好評であったが、それをキャプションやカタログに生かすことが望ましい。</p>			
	<p>入館者数</p>	<table border="1"> <tr> <td>4,000人以上</td> <td>2,800人以上 4,000人未満</td> <td>2,800人未満</td> </tr> </table>	4,000人以上	2,800人以上 4,000人未満	2,800人未満	<p>6,229人</p>	A	
4,000人以上	2,800人以上 4,000人未満	2,800人未満						
	<p>企画展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を</p>	<p>1. 開会期間 平成14年 6月 6日～平成14年 7月21日</p>		<p>第二次世界大戦後のイタリアの重要</p>			

「イタリア抽象絵画の巨匠 アフロ ブリッ フォンタナ」展	踏まえつつ、各委員の協議により、 評定を決定する。	<p>2. 会場 国立国際美術館</p> <p>3. 主催 国立国際美術館、イタリア外務省文化推進局、「日本におけるイタリア2001年」財団</p> <p>後援 外務省、在日イタリア大使館</p> <p>協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団</p> <p>協力 アフロ資料館、パラッツォ・アルビッツィーニ・ブリッ・コレクション財団、ルチオ・フォンタナ財団</p> <p>4. 出品点数 65件</p> <p>5. 入場料金 大人420円、大学・高校生130円、 大人(団体)210円、大学・高校生(団体)70円</p> <p>6. 入場料収入 798,290円(目標入場料収入 622,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 1940年代後半から1960年代の世界の美術の流れにおいて、重要な役割を果たしたイタリアの 3 人の画家を紹介するとともに、多様な展開をみせた戦後イタリア美術の一断面を紹介した。</p> <p>8. 講演会等 2回 165人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)</p> <p>9. アンケート回収数 486件(母集団 5,625人)</p> <p>アンケート結果 良い 60%(291件) 普通 33%(158件) 悪い 5%(22件)</p>	A	<p>な作家を紹介した興味深い企画であった。</p> <p>総合的な学習の時間に中学校に出向いて美術鑑賞教育を実施するなど、意欲的に取り組んだ。今後とも、効果的な普及活動について検討することが望ましい。</p> <p>また、目標を上回る人々が観覧した。</p>
入館者数	4,000人以上 2,800人以上 4,000人未満 2,800人未満	5,625人	A	
特別展 「いま、話そう 日韓現代美術展」	法人による自己点検評価の結果を踏 まえつつ、各委員の協議により、評 定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年 8月 1日~平成14年 9月10日</p> <p>2. 会場 国立国際美術館</p> <p>3. 主催 国立国際美術館、韓国国立現代美術館、(財)ダイキン工業現代美術振興財団</p> <p>協力 国際交流基金、旭硝子株式会社</p> <p>4. 出品点数 110件</p> <p>5. 入場料金 大人830円、大学・高校生450円、 大人(団体)560円、大学・高校生(団体)250円</p> <p>6. 入場料収入 1,246,490円(目標入場料収入 1,556,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 日本と韓国で現在活躍中の女性作家各6名ずつ、計12名によるグループ展。2002FIFAワー ルドカップの共同開催に際し、日韓国民交流年記念事業の一環として、日韓の相互理解がより一層深ま ることを願いつつ企画した。</p> <p>8. 講演会等 2回 120人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)</p> <p>9. アンケート回収数 328件(母集団 5,107人)</p> <p>アンケート結果 良い 53%(173件) 普通 38%(126件) 悪い 8%(25件)</p>	A	<p>韓国国立現代美術館と連携・協力し て、それぞれの国で現在活躍する作家 を取り上げた極めて重要で現代的な企 画として評価する。また、塗り絵コー ナーを設け、入館者が楽しめるよう工 夫した。また、目標を上回る人々が観 覧した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 国立国際美術館の目的や方針に基づ く展覧会は、入館者数にこだわらず今 後も開催することが望ましい。また、 アジアや太平洋圏へも拡大することが 望ましい。</p>
入館者数	5,000人以上 3,500人以上 5,000人未満 3,500人未満	5,107人	A	
共催展 「20世紀版画の巨匠 浜口陽三展」	法人による自己点検評価の結果を踏 まえつつ、各委員の協議により、評 定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年 9月19日~平成14年10月27日</p> <p>2. 会場 国立国際美術館</p> <p>3. 主催 国立国際美術館、日本経済新聞社</p> <p>協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団</p> <p>4. 出品点数 270件</p> <p>5. 入場料金 大人1200円、大学・高校生800円、 大人(団体)1000円、大学・高校生(団体)600円 大人(前売)1000円、大学・高校生(前売)600円</p> <p>6. 入場料収入 900,940円(目標入場料収入 3,111,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 2002年12月に浜口陽三が亡くなって以降、初めての本格的な回顧展であると同時に、作家が手 元に残していた、版画作品の試し刷り、下描き、アイデアスケッチ、デッサン、クロッキーなど、こ れまで殆ど公開されることのなかった資料を同時に展覧した。</p> <p>8. 講演会等 2回 140人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)</p> <p>9. アンケート回収数 406件(母集団 7,309人)</p> <p>アンケート結果 良い 32%(128件) 普通 46%(186件) 悪い 9%(35件)</p>	B	<p>目標入館者数には届かなかったが、 この作家の作品を網羅的に紹介した意 欲的な企画であり、デッサンや試し刷 り等と完成した作品を同時に公開する など、意義ある展覧会を行った。</p> <p>なお、タイトルや広報に工夫を凝ら し、入館者数の増に努める必要がある。</p>
入館者数	20,000人以上 14,000人以上 20,000人未満 14,000人未満	7,309人	C	
企画展 「畠山直哉写真展」	法人による自己点検評価の結果を踏 まえつつ、各委員の協議により、評 定を決定する。	<p>1. 開会期間 平成14年11月 7日~平成14年12月17日</p> <p>2. 会場 国立国際美術館</p> <p>3. 主催 国立国際美術館</p> <p>協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団</p> <p>4. 出品点数 80件</p> <p>5. 入場料金 大人420円、大学・高校生130円、 大人(団体)210円、大学・高校生(団体)70円</p> <p>6. 入場料収入 865,600円(目標入場料収入 622,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 国内外で活躍著しい写真家、畠山直哉(1958年岩手県生まれ)の個展。初期から新作までを簡潔 に網羅して紹介した。</p> <p>8. 講演会等 3回 500人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)</p> <p>9. アンケート回収数 570件(母集団 6,963人)</p> <p>アンケート結果 良い 66%(375件) 普通 26%(151件) 悪い 3%(16件)</p>	A	<p>国内外から注目を集めている現代写 真家の個展で、時宜を得た企画であっ た。効果的な広報で、目標を上回る人 々が観覧し、平成14年度、国立国際 美術館が開催した展覧会の中で一番ア ンケートの結果が良かった。この結果 を、今後の活動にも生かして欲しい。</p>

	入館者数	4,000人以上	2,800人以上 4,000人未満	2,800人未満	6,963人	A	
	特別展 「現代美術への視点 連続と侵犯」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年 1月16日～平成15年 3月23日 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館、東京国立近代美術館、(財)ダイキン工業現代美術振興財団 協力 日本航空、中部電磁器工業株式会社 4. 出品点数 43件 5. 入場料金 大人830円、大学・高校生450円、 大人(団体)560円、大学・高校生(団体)250円 6. 入場料収入 2,416,340円(目標入場料収入 1,556,000円) 7. 展覧会の内容 本展は、東京国立近代美術館において1984年以来企画されてきた「現代美術への視点」シリーズの第5回目にあたるもので、当館との共同開催の展覧会であった。出品された作品の方法は、インスタレーション、立体、絵画、写真、ビデオ、音響など多様ではあったが、皆、美術の根源にある、つくることそして見せることについての深い問いかけの結果としてあり、その開放的なあり方は知的刺激に富み、また、さまざまな角度から楽しめるものでもあった。 8. 講演会等 2回 105人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ) 9. アンケート回収数 303件(母集団 15,892人) アンケート結果 良い 60%(182件) 普通 33%(99件) 悪い 3%(10件)	A	東京国立近代美術館からの巡回展だが、展示空間の変更、ワークショップの並行開催など独自の創意が優れた成果となった。 効果的な広報で、目標を上回る人々が観覧した。この結果を、今後の活動にも生かして欲しい。
	入館者数	10,000人	7,000人以上	7,000人	15,892人	A	2年前に国立国際美術館で開催した展覧会の交換展であり、国際交流に貢献した。  【より良い事業とするための意見等】 海外での評価を収集し、日本国内でも積極的に公表することが望ましい。
	海外交流展 「目撃者 安斎」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成14年 9月 7日～平成14年10月 6日 2. 会場 ブンケル・シュトゥーキ現代美術ギャラリー(ポーランド) 3. 主催 ブンケル・シュトゥーキ/国立国際美術館 協力 (財)ダイキン工業現代美術振興財団、ポーラ美術振興財団、ルフトハンザ、ホテルクラコピア 4. 出品点数 600件 5. 入場料金 大人 6ズウォンティ、学生 3ズウォンティ (1ズウォンティは約32円、2002年4月のレート) 6. 入場料収入 不明 7. 展覧会の内容 当館が実施する国際交流の一貫として、2000年秋に開催した「安斎重男の眼 1970-1999」の出品作の一部をポーランドで紹介した国際交流展(写真展)である。 8. 講演会等 1回 40人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)	A	公私立の美術館等に対して、美術作品の貸与や特別観覧を行い、広く国民へ公開することに貢献した。  【より良い事業とするための意見等】 今後も、貸与等の要望が増えると思われるが、美術作品の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を考慮しながら、幅広く応えることが望ましい。 また、貸与・特別観覧の料金は、国の施設等機関であった頃の使用料に準拠しているが、今後、使用者やその目的などを勘案し、提供するサービスに見合った使用料や対応を検討することが望ましい。
<b>3 調査研究</b> (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 収集品に関する調査研究 美術品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			・貸与 31件(341点) ・特別観覧 19件(35点)	A	収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に行われ、美術作品の収集、展覧会及び図録の刊行などに成果を上げた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得により充実した調査研究が行われた。  【より良い事業とするための意見等】 研究成果を積極的に公開し、学会等にも発表することが望ましい。
	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 現代美術の調査研究 (1) 日本の現代美術の調査研究 『関西モダンデザイン前史』著(宮島久雄) 「大阪・町の図案家」(宮島久雄) 「原点は「素描教室」」(宮島久雄) 「「活動文字」は大阪生まれ」(宮島久雄) 「タイガー立石《荒野の用心棒》」(安来正博) 「ホンネで語ろう-日本の美術館の現状-」(安来正博) (2) 海外の現代美術の研究 「カンディンスキーと抽象絵画」(宮島久雄) 「トニー・アウスラー《空気寒柱症》」(中西博之) 「ダニエル・ビュレン《定まらないフォルムの絵画》」(中西博之) 『現代美術を知る クリティカル・ワーズ』共著(平芳幸浩) 『非人間的なもの』ジャン＝フランソワ・リオタール(仏文和訳)共訳(平芳幸浩) 「曽根裕 ダブルリバー島への旅」(平芳幸浩) 「マルセル・デュシャン《L.H.O.O.Q.》」(平芳幸浩)	A	

<p>制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2)調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>			<p>2. 展覧会のための調査研究</p> <p>(1)「福嶋敬恭 こころの中のこころ MIND OF UNIVERSE」展  「福嶋敬恭 その動態としての芸術家像」(安來正博)  「年譜・文献目録」(安來正博)  「福嶋敬恭《Blue Dots》」(安來正博)  「福嶋敬恭 こころの中のこころ MIND OF UNIVERSE」(安來正博)  「福嶋敬恭 こころの中のこころ」(安來正博)</p> <p>(2)「イタリア抽象絵画の巨匠 アフロ プリ フォンタナ」展  「プリ：制作の論理」(中井康之)  「アルベルト・プリ《袋》」(中井康之)</p> <p>(3)「いま、話そう 日韓現代美術展」  「「他者理解」について - 日韓現代美術展に寄せて - 」(加須屋明子)  「チャン・ヨンハ・ヘヴィー・インダストリーズ《オリエント》」(加須屋明子)</p> <p>(4)「20世紀版画の巨匠 浜口陽三展」  「「パリと私 - 浜口陽三著述集」編著(三木哲夫)  「浜口陽三年譜」(三木哲夫)  「浜口陽三参考文献」(三木哲夫)  「浜口陽三の色彩論」(中井康之)  浜口陽三《パリの屋根》(中井康之)</p> <p>(5)「畠山直哉写真展」  「畠山直哉 もののなりゆき、ことのなりゆき」(島 敦彦)  「畠山直哉 等高線」(島 敦彦)</p> <p>(6)「現代美術への視点 連続と侵犯」展  「ロラン・フレクスナー《無題》」(平芳幸浩)</p> <p>(7)「目撃者：安齋」展  "Shigeo Anzai: swiadek sztuki wspolczesnej" (加須屋明子)</p> <p>3. 科学研究費補助金による調査研究  「ポストメディア論 - 電子時代における芸術作品 - 」(加須屋明子)(萌芽的研究：継続)  「四大(地・水・火・風)の感性論」(加須屋明子)研究分担(基盤研究 代表 岩城見一)</p> <p>4. 講演会・セミナー  「カンディンスキー 色彩の響き」(宮島久雄)  「瑛九のフォトグラムにおける絵画と写真の関係について」(安來正博)  「第23回国際インパクトアートフェスティバル」に際して(安來正博)  「現代美術とジェンダー」ジェンダーの視線Part2 ~現代美術・異文化・組織~」(加須屋明子)  「写真を「鑑賞する」とは?」(加須屋明子)  「写真の中のジェンダー」(加須屋明子)  「食間の光景/食間の廃景」(加須屋明子)</p>		
<p><b>4 教育普及</b></p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 資料の収集及び公開</p> <p>収集件数 772件  公開場所 国立国際美術館では公開していない。</p> <p>2. 広報活動の状況</p> <p>刊行物による広報活動  年報、概要、図録、リーフレット、ジュニアガイドブック、月報、展覧会案内、ポスター・チラシ(展覧会関係)、チラシ(子どものためのワークショップ用)、ポスター(小中学生観覧料無料化用)  ホームページによる広報活動  ホームページの内容充実を図り、より積極的な広報活動に努めた。  マスメディアの利用による広報活動  各展覧会ごとに予算の範囲内で積極的な活用を図り、効果的な広報活動に努めた。</p> <p>3. デジタル化した件数</p> <p>・文字データ 728件  ・画像データ 484件  ・図書データ 2,872件</p>	<p><b>A</b></p>	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり着実に実施した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】  美術作品を広く紹介する方法として、インターネットを利用して情報を発信することは有効であるが、著作権契約に困難が伴うため、その対応について検討することが望ましい。また、著作権が切れたもの、公開の許諾が得られたものについては、公開することが望ましい。</p> <p>なお、収蔵品のデジタル化やその公開については、より一層の取組が望まれる。</p> <p>所蔵図書のデータをホームページで公開することが望ましい。</p>
<p>(2)新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象と</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業</p> <p>現役作家と子供たちが直接交流できるワークショップ(5回 130人)、子供たちに現代美術に親しんでもらうためのビデオ上映会(3回 57人)を行っている。</p>	<p><b>A</b></p>	<p>児童生徒を含む多くの人々を対象とした講演会などを着実に実施した。特に、作家自身を招いた講演会、対</p>

<p>した美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>子供のためのワークショップ</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>ビデオ上映</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>講演会</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>アンケート</p> <p>ギャラリートーク</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>アンケート</p> <p>フィルム上映会</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>アンケート</p> <p>ビデオ上映</p> <p>回数</p> <p>人数</p> <p>アンケート</p>	<p>4回以上</p> <p>3回</p> <p>3回未満</p> <p>188人以上</p> <p>132人以上 188人未満</p> <p>132人未満</p> <p>3回以上</p> <p>2回</p> <p>2回未満</p> <p>30人以上</p> <p>21人以上 30人未満</p> <p>21人未満</p> <p>4回以上</p> <p>3回</p> <p>3回未満</p> <p>2,201人以上</p> <p>1,541人以上 2,201人未満</p> <p>1,541人未満</p> <p>80%以上</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>56%未満</p> <p>7回以上</p> <p>5回以上 7回未満</p> <p>5回未満</p> <p>358人以上</p> <p>251人以上 358人未満</p> <p>251人未満</p> <p>80%以上</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>56%未満</p> <p>2回以上</p> <p>1回</p> <p>0回</p> <p>400人以上</p> <p>280人以上 400人未満</p> <p>280人未満</p> <p>80%以上</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>56%未満</p> <p>4回以上</p> <p>3回</p> <p>3回未満</p> <p>4,347人以上</p> <p>3,043人以上 4,347人未満</p> <p>3,043人未満</p> <p>80%以上</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>56%未満</p>	<p>2. 講演会等の事業 講演会 6回 843人 ギャラリー・トーク 6回 337人 上映会 2回 57人 ビデオ上映 5回 164人 シンポジウム 1回 80人</p> <p>5回</p> <p>130人</p> <p>3回</p> <p>57人</p> <p>6回</p> <p>843人</p> <p>84.2% 回答数603件 良い84.2%(508件) 普通18.7%(95件)</p> <p>6回</p> <p>337人</p> <p>81% 回答数337件 良い81%(273件) 普通19%(64件)</p> <p>2回</p> <p>57人</p> <p>77.2% 回答数57件 良い77.2%(44件) 普通22.8%(13件)</p> <p>5回</p> <p>164人</p> <p>83.5% 回答数164件 良い83.5%(137件) 普通16.5%(27件)</p>	<p>A</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>A</p>	<p>談、シンポジウムを実施し好評を得た。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 講演会等の活動については、年齢・性別を問わず、幅広い国民各層を対象とするよう配慮し、本来業務に支障を来たさない程度に充実させることが望ましい。</p> <p>一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員等が解説できる方策を検討することが望ましい。</p>
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 大学等との連携 博物館実習生の受け入れ 20名(美術館の事業に合わせたカリキュラムを組むなど、できるだけ日常業務を取り込んだ形での実習を実施した。)</p> <p>2. インターン インターン(大学院生対象)制度の導入に向け、規程整備、募集、選考を行い3名の登録を行った。</p> <p>3. ボランティア ボランティア(大学生対象)制度の導入に向け、規程整備、募集、選考を行い41名の登録を行った。</p>	<p>B</p>	<p>博物館実習生の受入など計画どおり着実に実施した。</p> <p>また、ボランティア及びインターンシップを平成15年度から導入するため、その募集を行った。</p> <p>今後は、研究員の受け入れ等に積極的に取り組む必要がある。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、</p>	<p>館の業務充実を図るため、展覧会に対する助成団体への申請を行った結果、次のとおり成果をあげることができた。館の事業をより充実したものとするために有効な方策であり、今後も積極的に取り組んで行きた</p>	<p>B</p>	<p>国際交流基金や財団から助成金を受け事業の充実を図った。</p>

針について検討を行う。		評定を決定する。	い。 1.「いま、話そう 日韓現代美術展」 協力：旭硝子株式会社 助成：国際交流基金ソウル日本文化センター 2.「現代美術への視点 連続と侵犯」展 協力：日本航空、中部電磁器工業株式会社 3.「目撃者：安斎」展 協賛：ルフトハンザ、ホテルクラコピア 助成：ポーラ美術振興財団		今後は、より積極的に行う必要がある。
<b>5 新たな美術館施設の円滑な運営について</b> (2) 国立国際美術館新館については、平成16年の移転に向けて、体制整備、展示等の実施準備を進め、開館後は円滑な事業実施に努める。具体的な管理運営のあり方等については開館までに検討を進める。	開館への準備状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	平成16年の新館移転に向け、館長のリーダーシップのもと学芸課、庶務課メンバーによる新館部会、広報部会、情報部会を設置し、新館における管理運営の在り方等について検討を行っている。各部会では、移転タイムスケジュール表に基づき、移転に向けた課題について検討を行い、毎月の定例会議において進捗状況を報告するなど、新館移転後の円滑な事情実施に向け準備を進めている。	<b>A</b>	大阪市北区中之島に建設中の新館の開館に向けて、移転後の運営に関する様々な検討が着実に進められた。  【より良い事業とするための意見等】 今後とも、美術作品を適切に保管し、入館者が楽しく快適に過ごせる美術館にするよう検討を進めることが望ましい。
<b>7. その他の入館者サービス</b> (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的の実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。 (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。 (2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。 (3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。	その他の入館者サービスの状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 障害者トイレ 1個所(1階 1個所) 障害者エレベータ 2基 段差解消(スロープ) 1個所(正面玄関) 貸出用車椅子 5台(1階) 2. 高齢者に配慮して、拡大鏡(ルーペ)を受付に配置し、希望者に貸出しを行った。 3. 観覧環境の充実 展示作品リストを含めたリーフレットを無料配布するとともに、館内にビデオテークを設置し、情報提供を行った。 4. 小中学生の入場料の無料化 5. 高校生の入場料金の低廉化 130円を70円に減額 6. ワールドカップ開催期間中、外国人(パスポート呈示者)の観覧料を無料とした。 7. 一般入館者等の要望の反映 アンケート結果の分析を行い、可能なものから改善に努めた。 8. レストラン・ミュージアムショップの充実 現代美術をより親しく感じてもらえるよう、販売グッズの内容を検討し、充実に努めた。	<b>B</b>	小・中学生の全ての観覧料金の無料化など入館者サービスの向上に努めた。 サッカーのワールドカップ開催期間中は、外国人観光客に対し常設展の観覧料金を無料にするとともに、外国語のリーフレットを配布するなど、日本文化の理解促進に貢献した。 新館移転後は、より積極的に入館者サービスに努める必要がある。

【国立新美術館】(平成15年6月に新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)から国立新美術館に名称を決定。)

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<b>6 新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の開設に向けた準備について</b> 文化庁が平成18年を目途に開設を予定している新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)について、文化庁と連携・協力し、その円滑な開設に向けた体制整備、展示事業等の準備を推進する。	開館への準備状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	平成14年10月に設立準備室調査官(1名)を措置し、文化庁が実施する次の委員会に協力した。 1)管理運営専門委員会 2)施設整備専門委員会 3)調査・検討WG 4)名称選考委員会		平成14年度は、10月に独立行政法人国立美術館内に国立新美術館の職員を採用したが、開館に向けた活動としては、文化庁の委員会等への協力に留まったため、本格的に活動を開始する15年度から評価を行う。 なお、今後は、管理運営に関する具体的な内容を明確にし、国民に対し積極的に情報を公開していく必要がある。		